

武蔵野プレイス（仮称）専門家会議（第3回）会議録

- 日 時 平成18年9月28日（木）午後6時30分～午後8時30分
- 場 所 スイングビル10階 スカイルーム
- 出席者 鬼頭梓委員長、清水忠男副委員長、新谷周平委員、栗田充治委員、小林麻実委員、近藤康子委員、武蔵野市図書文化専門委員、設計者川原田康子(有限会社Kwhg)、事務局（企画政策室長、企画調整課新公共施設開設準備担当課長他）、傍聴者 18名

開会

○鬼頭委員長 清水先生がおくれておられるのですが、定刻になりましたので始めさせていただきます。

前回傍聴してくださった何人かの方からご意見をいただきまして、ありがとうございます。その中で、私から1つだけお断りをしておきたいと思っておりますので、初めにそのことをお話しさせていただきます。

何人かの方から、もっと基本のところから議論をやり直すべきではないかというようなご意見をいただいておりますが、実は私ども専門家会議が市長から与えられております任務は、今回の基本設計をもとにして、より市民にとって利便性の高いものにするにはどうしたらよいかということ調査研究した上で、実施設計にそれを反映させるための会議、そういう意向でこの委員会は成り立っております。

その中に、具体的に4つほど項目をいただいております、1つは施設の中の配置のあり方に関して、より使いやすい配置にするにはどうしたらいいか。それから、この館全体の運営の方法とかその主体について。3番目が、地下駐車場への入り口について。そして4番目が、他の施設との関係について。その4つの項目について検討してほしいといわれております。

もちろん議論は基本に立ち返ることは幾らもあると思いますが、今までの基本そのものを考え直すということは、この委員会ではそういう任務を与えられておりませんし、そういう権限もございませんので、今申し上げたように今の基本設計をもとにして、さらによりよく市民に喜ばれるものにするにはどうしたらいいかということを検討していくつもりでございます。

今まで、どういう考えで現在の基本設計がつけられてきたのか、基本の考え方から具体的な基本設計にどういうふうに移されてきたのか、その内容がどうなっているのか、そういうことを事務局からいろいろご説明をいただいて勉強してきたわけでもございまして、きょうも大体そういうことになろうかと思えます。あと、駐車場の問題と運営の問題については、多分次回になってしまうと思えますが、今はいわばその辺の学習段階でございまして、それを踏まえて、さらにどういうふうにしたらよりよい基本設計というものを考えられるかという検討に移ってまいりたいと思えます。

そういうことでもございまして、その点はひとつ市民の皆様にご了解をいただきたいと思えます。

前回いただいたご意見で、委員の先生方、何かご意見ございましてか。それについてはちょっと一言いっておきたいとかということがございまして、おっしゃっていただきたいと思えます。特にございませんか。

○栗田委員 全体の構想ということに関連してくるだろうと思って、最初から気になっていたことなので、せつかく水を向けていただいたのでちょっと発言しておきたいと思えます。

全体の財政の規模の問題なのですが、この間の経緯の中にもそれがあって、少し予算を抑えた新しい市長さんのもとでの案が出てきたという経過があるのですが、お金がどのくらいかかるかということは余りにしないで、使いやすさといいますか、今委員長さんがいわれた4つの点について我々は考えればいいということなんです、どうしても根っこで気になるといいますか、1日当たり100万円以上もかかるメンテナンスというような形が、果たして将来的にどうなるんだろうというようなことを、全然気にしないで話をしていくというのでいいのだろうかということがあります。

そういう点で、ある程度大きな枠をどういうふうにかえたらいいのか。それこそ欲をいえば切りがないというのがありますよね。いろいろな市民関係の方の拠点の話にしても、欲をいえば切りがないということがあるのですが、市の今後の財政の状況と市民の負担というところを考えながら、どういうふうにかえたらいいのか。それは我々この会議としては、全然気にしないでやっていいのかということが最初から随分気になっているところです。そこはわきに置いておいていいのか。

例えば運営なんかのところにも関係してくるのでしょうか、それこそちまたでいろいろ話をされている部分で出てくる案としては、例えばスイング方式みたいに、どこかたな

子を入れてメンテナンス費用の分をある程度浮かせるような形を考えたかどうかとか、全体の構想に関係してくるような意見なども取りざたされているようなところがあるのですが、施設のデザインの仕方にかかわってくるような財政的な問題というのは、我々は気にしないでいいのか、どの程度気にしていいのかという問題を、クリアにしておいていただきたいというような思いを最初から抱いておりました。

○鬼頭委員長 大変難しいご意見をいただいたのですが、これは私からお返事するわけにはまいりませんので、事務局の方からお願いします。

○事務局 第1回目のお話のときにも、コストについてどうするのかという話でしたが、コスト削減をするために例えば規模を抑えるとか、そういうことではなくて、いかにどういうすばらしい施設をつくるか、コンパクトとか使い勝手のいい施設をつくるかということをまずご検討いただいて、それがあつ程度煮詰まってくれば、ある程度のランニングコストと図面が出てくれば、当然イニシャルコスト、建設費も出てくるでしょうから、その段階になれば当然そこでご論議いただきたいということでございます。

基本的な姿勢とすれば、やはり我々としても貴重な税金を投入するわけですから、できる限りいい施設で、ランニングコスト、イニシャルコストを抑えるといいますか、少ない方がいいとは考えていますが、それとて抑えるために機能を犠牲にしてというふうには思っておりませんので、まず最初に機能とか使い勝手の部分から検討していただきたい。煮詰まってきた段階では、やはりどうしてもその問題というのは出てくると思います。そういうふうにご考えております。

○鬼頭委員長 ということで、よろしゅうございますか。

特に予算の規模等のことについては、私も市長から何もお話を伺っておりません。ただ、当然できるだけ合理的に考えて、同じ機能を出すのにより合理的な計画を持ってイニシャルコスト、ランニングコストを下げるということは、私たちにとって基本的に大切なことだと思っております。ただ、そのために規模を縮小しろとか機能を縮小しろとかというお話は、私の方は一切伺っておりませんし、そういうことではなくて、基本設計について検討しろということでございますので、今の事務局のお答えで、それ以上深入りするのはいちよつと困難かと思ひます。

それでは、きょうの議題に入らせていただきたいと思ひます。きょうもレジュメをいただいておりますので、それに従つて議事を進めてまいります。

前回までに話題になつておりませんフォーラム、生涯学習機能、それから他施設との連

携といった点について、どういう考え方で現在まで至っているのかということについて、事務局からご説明をいただきたいと思います。

その後で、前回栗田委員からレクチャーをいただきました市民活動機能について、きょうは詳細なデータが出ておりますし、同じく新谷委員から資料要求がありました青少年活動機能についてのデータがきょう出されておりますので、新谷委員のご提案に対する事務局の考え方等も伺っていききたいと思います。

時間がどういう具合になるかわかりませんが、最後に図書館機能についても、今までの議論を少し整理していきたく思っております。

それでは、事務局から生涯学習・フォーラム機能について簡単なご説明をお願いしたいと思います。

○事務局 企画調整課の木村です。よろしくお願いいたします。

厚い冊子の方をごらんください。表紙ですが、会議次第ということで、9月28日水曜日になっておりますが、済みません、木曜日に訂正してください。

今委員長から説明がありましたように、きょうの議事ですが、(1)から(5)の5項目についてご説明をしていききたいと思います。まず初めに、(1)「生涯学習・フォーラム機能」、そして関連する(2)「他の施設との連携」ということで、これを一緒に説明していきたいと思います。その後に、市民活動、青少年、図書館について、前回の議論を踏まえてさらに議論を深めていただきたいと思います。

それでは、(1)「生涯学習・フォーラム機能」、(2)「他の施設との連携」についてご説明したいと思います。1枚めくっていただいて3ページをごらんください。

「生涯学習・フォーラム機能の考え方」として、まず最初の委員会、「新公共施設基本計画策定委員会の生涯学習・フォーラム機能の考え方」ということで、施設構成としては、生涯学習・フォーラム機能に当たる部分が「会議・研究・発表」のための施設ということになります。

中段のところ、「一方」のちょっと先に、「市民が集まって様々な知的活動を行うには、多岐にわたる活動の形態に対応できる会議室、打ち合わせスペースなどが不可欠である」。それから、利点ということで、「駅前という恵まれた立地条件をもつ本施設では、仕事や学校帰りに、それぞれの地域に帰る途中で、学習や読書などに利用したり、人々が一堂に会してフォーラムを開催・参加するなどの知的活動を行う機能が求められている」ということが基本になっております。

それから下の方に、「学習ブースは」と書いてあるのですが、学習ブースは青少年のニーズが高いので設置をするだけでなく、大人の研究・学習の場としても整備していくということになっております。

一番下段になりますが、「また」というところで、「大小様々な会議に対応できる会議室を設置する。特に、大会議室は、研究や創作活動の発表の場として、講座、会議、イベントなどが行える多目的な空間とする」というようなのが基本になっております。

次のページ、4ページをごらんください。

「事業展開の考え方」ということで、これはこの間もちょっとご説明したところなんです、(2)の「自主事業型」というところが中心になるかと思えます。3行目あたりに、「利用者の活動を支援することを目的としたレクチャー、フォーラム、ワークショップなどの事業を企画運営するものとする。特に、青少年向けのプログラムの実施については、周辺大学等との連携や協力により高校生や大学生の参画を促すしくみを工夫する」。「また、知的創造拠点として積極的に参画すべきであると思われる事業については、コンソーシアム型等柔軟な実施形態を取り入れ、講演会、公開講座、シンポジウムなどの知的活動を推進するものとする」というようなのが事業展開になっております。

5ページ目、次の第2回の委員会、「農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会での生涯学習・フォーラム機能」でございますが、「会議・研究・発表」のための施設を「フォーラム」と名づけております。

①として、大会議室を「フォーラム」と名づけております。フォーラムについては、主に会議、講座、イベントを開催できるような収容人員200人程度の視聴覚機能を備えるものとしております。ここでの利用方法ですが、武蔵野地域自由大学などの生涯学習事業、映画会やおはなし会などの図書館の自主事業、それから今回ここで新たに考えているのが市内外のさまざまな有識者を招いて開催するレクチャーシリーズ、仮称ですが「武蔵野フォーラム」というものを開催していこうと考えております。

②の「ルーム」は、さまざまな大きさのスペースを用意しまして、研究、調査などの成果発表の場でもあり、グループ学習の場でもあるというような位置づけをしております。

3番目が「スタディコーナー」。これはだれもが使える「市民の第二の書斎」ということで、「緑が間近に見える場所に設置し、静寂で快適な学習環境を提供する」というようなことを位置づけております。

もう1つ、生涯学習事業の位置づけとしては、「管理運営方針」の方に載っております。

「本施設において、生涯学習事業はひとつの柱であり、市民の多様なニーズに応えられるサービス提供が求められている」ということで、「生涯学習スポーツ課で行っている武蔵野地域自由大学をはじめとする生涯学習事業や市民会館の講座等の事業を再編し、本施設を管理運営する指定管理者が、生涯学習プログラムとして実施することが望ましい」ということですが、また後ほどご説明しますが、管理運営については市で実施している生涯学習事業を、このプレイスの指定管理者へ移管していこうという考えでございます。

6 ページに移らせていただきます。6 ページは、「基本設計の生涯学習・フォーラム機能」の部屋の仕様とか想定する事業形態を掲載いたしました。

最初に「フォーラム、スペースの構成」ということで、ここで「スペース」と名前がついていますが、先ほどの前委員会の方で「ルーム」と呼んでいたのが、基本設計で「スペース」と呼び名を変更しております。

この中で、まず3階の市民オフィスのところに自由に使えるミーティングスペースがあり、それからスペース 25 という 10 人用が2つ、スペース 40 という 20 人用が2つ、スペース 50 という 30 人用が2つありまして、40 と 50 は対になっておりまして、可動間仕切りによって2室を1室にすることによって 50 人用に変更ができるということです。それからスタディコーナーとして 60 席。それからフォーラムは 200 人用なのですが、実際机を使用した場合には半分の 100 席程度を想定しております。

その下に「フォーラムスペック」ということで、座席数 200 席、机使用で 100 席、面積的には約 200 m²、映画ができるように一応スクリーンとか、あとパソコンプロジェクターで映せるというようなことができる仕様を想定しております。

類似施設としては、一番わかりやすいのは商工会館の市民会議室ですが、ここが机使用で 90 席、大体 178 m²ですので、それよりちょっと大きくなったぐらいのものです。それからスイングビルでいえば、スイングホールとほぼ同じぐらいの規模だろうと思います。

次の丸の「フォーラムを中心とする生涯学習事業の展開」ということで、これはもう一度繰り返すようになるのですが、第1回目の委員会で、利用者の活動を支援することを目的としたレクチャー、フォーラム、ワークショップなどの事業をやる。それからコンソシアム型の講演会、公開講座、シンポジウムなどをやる。それから青少年向けのプログラムを実施するに当たり、周辺大学との連携や協力により高校生や大学生の参画を促すというようなことです。

これをもう少し具体的に今考えているのが、先ほどご説明したレクチャーシリーズ「武

蔵野フォーラム（仮称）」というものと、武蔵野地域自由大学などの生涯学習事業、それから周辺大学との連携。この辺は、まだちょっと詳細な詰めをしてないのですが、例えば模擬大学講義の開催等で、高校生に大学の説明みたいなものがないかというようなことです。

図書館事業としては、映画会とかおはなし会。それから、図書館事業の中で、新たに展開していきたいのはビジネス支援企画等。この辺も、ビジネス支援がいかなるものかというのはまだ検討事項ということなのですが、そういうものをしていきたいということでございます。

それから、あとはスタジオを中心とする青少年向けのプログラムということで、青少年の好む音楽やスポーツをテーマとした講演会。これは講演会というか、トークショー的なものでもいいのかなというようなことで、フォーラムでやってもいいし、スタジオのラウンジのところで気軽に聞けるようなショー的なものでもやる。1つのここに来てもらうための仕掛けみたいな形で、入ってもらえればいいかなと考えております。

7ページでございますが、想定できる利用形態ということで、今までご説明したように図書館事業、講座、団体等への貸出の利用形態に大体分かれるところですが、利用人数、利用内容によってこの中のスペースを利用者が選ぶような形、もしくはこちらの自主事業として展開するというような形になるかと思えます。

それから、一番需要度が高いのは、一番小さい3階のミーティングスペースで、これは気軽に使ってもらえるのですが、それからスペースが25、40、50というふうについて、一番大きいスペースがフォーラムというようなラインアップになっています。

それから、下の方に「フォーラムの想定利用」ということで、午前、午後、夜間と3こまに分かれたときの利用形態として、繰り返すようですが、図書館事業、生涯学習講座、貸出を基本にしまして、フォーラムの場合には、利用のないときはマガジンの閲覧スペースとして使用していくということになります。

今後としましては、図書館事業とか生涯学習事業などの自主事業が、フォーラムで具体的にどれができるのかというのを明らかにしていきたいと考えております。

8ページをごらんください。

続けて4つの検討事項の1つ、「他の施設との連携の考え方」を説明していきたいと思えます。

まず、最初の委員会での他の施設との連携という位置づけでございますが、①として「公

園との一体的管理」ということで、「例えば」ということで3行目、「施設の一部と公園とを同時に利用できるような一体的な管理システムを検討する」ということで、隣の公園を一体管理することで、公園も1つの知的創造活動の場であるという位置づけになります。ですから、前回新谷先生のご提案にもあったように、青少年の場としても利用できるという考えがあります。

②として、「スイングホールとの連携」ということで、南北一体化することによってスイングホールの利便性がより上がりますので、役割分担をして使っていくという形になります。

③として、「他の図書館・文化施設との連携」ということで、もちろん中央図書館、吉祥寺図書館との3館のネットワークは当然ございますが、あとは市民文化会館、公会堂、芸能劇場、吉祥寺美術館などの文化施設とも連携を考えていくという形になります。

それから9ページ目ですけれど、「今後に向けて」ということで、「本施設と周辺施設との役割分担の明確化」ということで、「本施設と関連する機能を持つ西部図書館の今後のあり方と市民会館との役割分担については、効果・効率性などの観点から次期の長期計画策定時に十分検討し、整理する必要がある」ということで、今長期計画の調整計画の見直しをやっていますので、この辺もそちらの方で諮っていきたいと考えております。

2回目の委員会としての他施設との連携というのも、同様のことが記述されております。2行目あたりに、「本施設においても、一定規模の発表ができるスペースは併せ持つが」ということで、本格的な発表の「場」は備えていないと位置づけておりまして、その本格的な発表の「場」というのが、連続立体交差後に利便性の上がるスイングホールを本格的に活用していくというような形になります。それから、市民会館、公会堂、芸能劇場も、やはり本格的な発表の「場」と考えております。あと、吉祥寺美術館とは美術的な企画等で連携、それから新たにできた吉祥寺シアターについては、演劇面での企画で連携を図っていくことができるのではないかと考えておりまして、この辺も今後詰めていきたいと考えております。

次の10ページ目でございますが、公園については先ほど申し上げたように、隣り合わせで管理をして使っていくということです。

それから、「資料」ということで、スイングの利用状況なんですけど、この間もご説明したように、ここは70%前後の高い利用率がありますので、ここにフォーラム機能を持っていくというのは実際に無理な話なので、役割分担ということで、先ほども申し上げたように

本格的な発表の場ということで、プレイスの企画、イベントに合わせて年に数回利用する形態が想定できると考えています。

例えばということで、青少年のバンドコンテストということであれば、音響がしっかりしているスイングホールを利用するとか、市民活動の総会的なものをするというのであれば、この上にある飲食も可能なレインボーサロンを利用するということが考えられると思います。

最後ですが 11 ページ、「生涯学習・フォーラム機能について、庁内検討委員会検討意見」ということで、「生涯学習機能について検討する上での基本的考え方」ということで、「武蔵野プレイス（仮称）は知的創造拠点として、市民の多様な学習意欲に応えられるよう、生涯学習事業を展開する」。現在生涯学習事業を行っている教育委員会教育部生涯学習スポーツ課、市民会館も含めてですが、既設の事業ということで表 1、表 2 については、①「教育委員会実施を義務・要請付けられているもの（法令、通達等）」、それから②「全市的な立場及び他自治体等との関係から市及び教育委員会で実施したほうが良いものなどを踏まえて」。移管できないというようなものはやらないのですが、できるものは移管するというようなことを、整理しながら検討していくという方針で今考えております。

表 1 が、今生涯学習事業としてやっているものの表になっております。

12 ページが、表 2 ということで、市民会館でやっている事業についての表になっております。

2 番目として、現在の検討状況は、武蔵野地域自由大学、市民講座などについて、移管を前提に事業内容・時期等について精査をしていくということで、今後、もう少し時間をいただいて検討していきたいということです。基本的には、講座等はプレイスの方で事業展開をしていくということで考えております。

13 ページですが、これは資料的なものになります。「図書館事業、生涯学習事業の実績」ということで、17 年度の事務報告から抜粋しております。この中で、プレイスのフォーラムとかスペース、スタジオでどこまで講座が開けるか、そういうものを具体化していこうということで庁内で今後諮っていききたいと考えております。

14、15 ページでは、3 階と 4 階の概略図を載せております。

済みません、ちょっと間違いがありまして、8 ページの最初のところですが、「農水省跡地利用」と書いてありますが、これは最初の委員会、「新公共施設基本計画策定委員会」の間違いです。失礼しました。この点を訂正させていただきます。

簡単ですが以上です。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

今のご説明で何かご意見、ご質問があったらよろしくお願いします。

私から1つ質問がありますが、スタディコーナーというのは、いわゆる図書館の学習室という機能を兼ねているという考え方ですか。

○事務局 そのとおりでございます。

○鬼頭委員長 学習室を独立して設けるのではなくて、いろいろな利用をここで兼ねてしまうわけですか。

○事務局 そうです。

○鬼頭委員長 学習室と普通の人と一緒にうまくいけるかどうか、何かちょっと疑問がありますが、わかりました。今はそういうことになっているわけですね。

何かほかにご意見、ご質問ございませんか。

○近藤委員 基本的な質問で申しわけないのですが、11ページの既設生涯学習事業、いろいろお書きいただいているのですが、これは現在はいろいろなところでやっているということによろしいのでしょうか。いろいろな場所を使って。それを、物によってはこのプレイスに持ってこようと、こういう認識でよろしいでしょうか。

○事務局 生涯学習課長の高橋でございます。

現在いろいろな場所、例えば公会堂あるいは商工会議所の関係あるいは市民会館でももちろんやっております。等々の羅列をしたという状況でございます。

○近藤委員 これは主催の主体は市、行政ということによろしいですね。

○事務局 教育委員会でございます。

○鬼頭委員長 ほかにご意見、ご質問ございませんか。

では、また何かありましたら後で戻っても構いませんので、次に移らせていただきます。事務局から、市民活動機能についてご説明をいただきます。

○事務局 それでは、「市民活動機能について」ご説明いたします。

16ページをお開きください。

ここは資料編ですので、簡単にご説明をしていきたいと思っております。平成18年の3月に、「武蔵野市NPO活動実態調査等報告書」がまとまりましたので、その辺で参考になればと思ひまして今回掲載させていただきました。

まず「調査の概要」の中で、調査対象者として67団体、回答状況は37件ということ

す。

次の 17 ページに、前回の中でご質問があったかと思いますが「活動の内容」ということで、重複している団体もあるようなのですが、一番多いのが「まちづくりの推進」、それから「社会教育の推進」「子どもの健全育成」「学術・文化・芸術・スポーツの振興」等並んでいるような状況です。

それからちょっとめくっていただいて 23 ページ、この辺が具体的にプレイスに関係してくるようなところなのですが、4.「活動のための拠点整備について」ということで、9割以上の団体が、こういう活動拠点があれば利用したいというようなことです。

それからその下の「利用時間」ということで、開館時間について一番多いのは9時、閉館時間は21時というようなアンケート結果です。

次の 24 ページ、③「拠点機能」ということで、一番多いのが「打合せ場所として自由に使える」という回答で、今のプレイスを利用してということだとミーティングスペースに当たるかなということでした。

それから「大きな会議等が開催できる」ということで、これはフォーラムが合うかなと思います。

「印刷等ができる」ということで、これは印刷室を考えております。

「各種団体と交流・情報交換ができる」ということで、これはハード的にいえばレターケースとか情報コートで情報交換ができる。また、あとはイベント等の開催で団体間の交流も深めていただければと考えております。

「事務所を置くことができる」。これについては、今想定しておりません。一応レターケース、ロッカー等を活用していただきたいと考えております。

「活動に関する相談ができる」ということで、この辺が課題になるかと思うのですが、中間支援NPOが市民オフィスを管理できるかということ、今後検討していきたいと考えております。

「図書等が自由に閲覧できる」ということで、この辺は今回のプレイスの一番いいところの1つで、図書館にはそろっているし、さらに市民オフィスの中でNPO関連の図書を配置する等できるかと考えております。

25 ページの上の「設備要件」ということで、「印刷・コピー機」「電話・ファックス」。「印刷・コピー機」は当然想定しております。「電話・ファックス」については、カウンターで1つを兼用するなり、何か方法があると考えております。それから「パソコン」「レタ

一ケース」「ロッカー」等は、装備できるかと考えております。

ちょっと飛ばしていただいて 28 ページ、この辺がアンケートのまとめになっているのですが、繰り返すようですが、4. 「“活動場所”に関する課題」ということで、(1) 「活動場所の確保」ということで、まさにプレイスができれば利用したいということですが、

(2) 「活動場所の機能」ということで、先ほどのアンケート結果と同じように、「打合せ場所として自由に使える」「大きな会議等が開催できる」「印刷等ができる」といったハード面のニーズが高いという調査結果が出ています。

29 ページですが、上が今プレイスで想定している「市民活動機能のハード面」のスペックです。これは、ほぼ今のアンケート結果の内容を網羅していると考えております。

それから、下が今後の課題ということで、「市民活動機能のソフト面」については、中間支援NPOの方の管理運営等を検討する。場合によっては、そういうNPOの方々と意見交換をし、要望を聞くことを考えております。

以上ですが、市民活動に関しては、機能面にそれほどずれがないかなと考えております。

以上です。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

これは、前回の栗田先生のお話の続きみたいなことですが、栗田先生、何か補足することがありましたらお願いします。

○栗田委員 前回私の方で口頭で申し上げたことを、資料につくっていただいたと思うのですが、「事務所を置くことができる」という要望が4割ほど出ているということですが、事務所そのものを今回置くというのは無理があるだろうというお話だと思うんですけども、NPOさんたちのいろいろなヒアリングの中で、特に武蔵野プレイスを念頭に置いた話ではないのですが、レターケースというのがあるということ、例えば事務所の所在地をそこに置くことができるのかとか。あて先をご自宅に置くとなかなか信用されないということがあるので、レターケースを置いている場合に、武蔵野プレイス何号というような形で置けるのでしょうかという声も出ていました。ですから、その辺の取り扱い方など、具体的ところでそれをいいというのか、それは困るというのかという話が出てくると思いますが、現実的な問題としてはそういうところが気になっているところがございます。

あとは、前回申し上げたように、特に用途を規定しないフリースペース、5～6人、7～8人集まって相談ができる、話ができるようなスペースというのは、基本的なところはメールとかメールリストとかでやりとりできるのですが、話を詳細に詰めていくというこ

とになるとどうしても実際に会って話をしていかなければまとまらないところがありますので、駅に近くて自由にあいているところを使えるというのは、ある意味では非常に使い勝手がいい利用形態になるであろうということで、そのところは非常にありがたいと思っております。

○清水副委員長 関連しての質問なのですが、ページ数でいいますと、6ページと今説明していただきました29ページに関連しています。

それぞれの表の見方なのですが、例えば6ページの上の表、「フォーラム、スペースの構成」というところで、その表の真ん中辺にスペース40、スペース50、その下にも40、50とございますよね。「利用2」というのがプラスとなっていますので、ここに書いてあるように仕切りによってこの2つを1室で利用するわけですよね。29ページの「市民活動機能のハード面」の表の中にも、「市民オフィス（予約貸出）」とありますが、スペース40と50というのがある、その下にまた40、50とあるのですが、これは一緒にして使うことができるということですよ。

こういう全体の空間、広さというものを検討するときに、随分部屋が多いんだなと思っていたのですが、これはそのような使い方ができるという表示ですね。表現の仕方を誤解がないようにしてもいいかもしれませんね。どうも済みませんでした。

○鬼頭委員長 これは重複して載っているということですね。わかりました。

ほかの先生方、ご意見、ご質問ありましたらどうぞ。

では、とりあえず次へ参ります。

青少年活動について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局 それでは、「青少年活動機能について」ご説明をしたいと思います。

30ページをおあけください。

ここは、新谷先生の方から事前に資料要求がありましたので、こちらの方でできる限り答えられるところをつくったものなので、すべて網羅できているのかというのは、後で新谷先生の方で検証していただければと考えております。

1番目として「児童館、その他の青少年施設の配置と施設整備・職員配置の実態。中高生タイム等10代向け事業の実施状況等」ということで、ご質問がありました。

最初に児童館の運営ということで、市区町村によって状況がまちまちなところがございます、児童館に力を入れている地区もありますが、武蔵野の場合には、児童館については桜堤に1館しかございません。実際の利用率からいきますと、乳幼児、それから主に小

学生が利用しておりまして、その小学校を卒業した中学生が一部利用しているというような状況なので、主に小学生の利用がメインになっている状況でございます。職員につきましては、一応保育士、幼稚園教諭等を配置しております。

次に事業として「中学生・高校生リーダー養成講座」ということで、野外活動とか保育体験とかボランティア活動とか、そういうものに興味がある中高生に応募していただいて、そういうものの実体験をしてもらう講座でございます。17年度の実績としては、登録者数は169名、延べ参加数は271名という実態でございます。こういう養成講座を受けた中高生に、場合によっては上にかかわってもらえれば、発展的に進んでいくかなと考えています。

「むさしのジャンボリー事業」ということで、これは武蔵野市の特有のもので、学校単位ではなく学区で川上村というところに行って2泊3日の体験をしてもらう小学生の自然体験の事業なんですけど、そこに先ほどの中高生リーダーを中心としてサブリーダーという形で、大人の指導者にまじってボランティアでお手伝いをしてもらうということで、17年度で105名の参加がありました。

それから「野外活動サポートスタッフ」ということで、中高生リーダーを卒業して、もう少しレベルアップする野外活動系のレベルアップの養成講座みたいなものですが、これは総合体育館の野外活動センターでやっています。18歳以上の方対象でやっております、大体40～50名が登録しています。中心になっているのは大学生ということでございます。

もう1つは市民会館で、これは事業というよりは自習室として、夏休みとか冬休みに学習室として開放しているものです。

あと、ここには記載はないのですが、学校開放事業ということで小中学校の校庭とか体育館を団体開放するという中で、青少年のグループというか、サッカーチームとかバスケット等で団体として動いているところが利用しているという実態もございます。また、サッカーでいえば、武蔵野サッカーリーグというのがありまして、高校生から社会人までかなりの参加があるということもございます。

それから31ページですけれども、こちらは公共施設で青少年の利用できる場として考えられるところを挙げております。

1番が総合体育館に「ストリートスポーツ広場」というものがあります。これは前市長の時代に、市長への手紙をきっかけにスケートボードやインラインスケートができる施設を整備したということで、モラルを守って利用してもらっているという中で、かなりの利

用率があり、土日については 50 人から 80 人という利用状況です。

総合体育館では、1 階に軽体操・ダンス室というのがありまして、ここは貸出なんです
が、大学生を中心とするダンスサークルが週に 2 回程度利用していきまして、ダンスの練習
をかなり活発にやっている状況があります。

バスケットにつきましては、毎週火曜と金曜に体育館を個人開放していきまして、自然に
そこに集まった人でゲームをするというような形でにぎわっているという状況があります。

3 番目が図書館。図書館につきましては、夏休みになると勉強の場ということでかなり
利用しているということです。

もう 1 つは、武蔵野市特有なんですけれども、自治会がないものですからコミュニティ
センターという形で各地域にそういう施設を配置しております。その中に、ロビー、ピア
ノと書いてあるのは簡単な音楽ができるように、それから学習室。体育施設については、
卓球ができる程度のところもあれば、バスケット等ができるような体育館級のところもあ
ってさまざまですが、これが地域にありまして、青少年も利用している状況でございます。

32 ページが 2 番目のご質問ということで、「市内の中学校・高校・大学・専門学校等の
配置」です。

書いてないのですが、最初の表が中学校になっていきまして、公立が 6 校、私立が 5 校あ
りまして、公立で 1,800 人、私立で 2,400 人、全体で 4,200 人います。

下が高校ですが、都立高校が 2 校、私立が 5 校ありまして、高校生がトータルで 8,700
人になります。

それから大学ですが、市内には 5 大学ありまして、学生が 1 万 5,500 人ほどいます。そ
れから、市外で近いところで武蔵野大学とか、武蔵境に行けば三鷹市ですが国際基督教大
学、杉並境で東京女子大学とありまして、市内、市外合わせると 2 万 5,000 人程度の学生
数になります。

それから下の表が、上の方が専修学校で 6 校ありまして 5,700 人、下が各種学校という
ことで 2 校あって 277 人ということで、トータルで 6,000 人程度いらっしゃるということ
です。

市内で大体 3 万 4,000 人、先ほどの市外の大学 3 校を合わせると 4 万 4,000 人程度にな
ります。

次の 34 ページ、③「人の流れについて」ということで、これを数的にあらわすのは
非常に難しいのですが、一応数的にあらわしてみました。

まずは武蔵野市の人口ということで、15歳から19歳、20歳から24歳の世代で1万5,000人程度ということなのです。

下の表は駅の乗降客ということで、3駅ありまして、JR吉祥寺駅で1日13万8,000、京王吉祥寺駅で7万、三鷹駅で8万4,000、武蔵境駅で5万9,000、西武武蔵境駅で1万2,000という乗降客の動きがあります。

その隣が商業圏ということで、売り上げであらわしているのですが、吉祥寺駅は桁が違います。三鷹と武蔵境についてはほぼ同額程度というところなのです。ただ三鷹については、三鷹市になるのですが南口の方の売り上げの方が高い。あちらの方が商業圏が発達しているというような状況です。

35ページは、タウンページから挙げてみたのですが、これもざっとした数字ですが、青少年がこういうところを利用するのであれば、これぐらいの店舗数があるというような表です。

次の表が、先ほどの中・高・大学の表を、駅圏で振り分けた形です。これもざっくりしたのですが、吉祥寺圏としては2万人、三鷹圏としては8,000人、武蔵境としては1万1,500人程度というような数になります。

下の考察ですが、これは私の私的な部分もちよつとあるのですけれど、吉祥寺はご存じのように若者のまちということで、あれだけの商業圏がありますので他圏からも集まってくるということで、吉祥寺の2万だけではなくてほかにも青少年というのは随分集まってくるということだと思います。

三鷹駅については、北口が武蔵野市なんですけど、こちらはどちらかというと商業圏というよりは業務圏で、青少年が集まるようなところは余りないので、吉祥寺に流れていくのではないかと考えられます。

武蔵境については、亜細亜大学、武蔵高校という地元の学校がありますので、そういう人たちの利用は固定的にあるのではないかと考えております。北口については、すきっぷ通りがありましてファストフード店が連立しておりますし、南口には大型スーパーのイトーヨーカドーがあつて、西館の地下は飲食街のようになっていて青少年がおしゃべりできるような場があるという状況でございます。

36ページ以降が、平成12年に子育てプラン武蔵野をつくるに当たって、「中学生・高校生の生活実態と意識に関する調査」というのを実施しております。

1枚めくって38ページに、「平日の放課後の過ごし方」ということで、1番は一番下の

部活、それから友達と遊ぶとか、テレビを見る、ビデオ、ファミコン等で遊ぶというような形です。あとは楽器の練習やらピアノのおけいこやら塾に行くというような形になっています。

次の 39 ページが「休日の過ごし方」ということで、逆に部活、学習塾に行くというのが減って、友達と遊ぶ、テレビやビデオ、ファミコンで遊ぶというようなのがふえて、あとはそう変わらないというようなことです。

40 ページですが、(7)「悩み事の有無」ということで、一番は「成績・勉強」、それから「受験・進路・予備校」「人生・将来」というようなことです。

41 ページは「悩み事の相談相手」ということで、友達、それから母親というような結果になっています。

42 ページは「中高生の居場所づくりへの参画意向」ということで、これはゆう杉並の運営委員会をイメージした質問だと思うのですが、積極的に参加しますかというような質問だったのですが、ちょっと反応が悪かったなというような感じです。単純にこういう施設があったら利用しますかという質問であれば、もう少し反応があったかなと考えております。

43 ページですけれど、前回新谷先生の方から具体的提案ということで、これについては今はざっとしか検討していないのですが、できる限り反映していきたいと考えております。

①の中では、この間はスタジオを減らしてプレイスペースをふやす、それからスタジオラウンジを広くする等の話がありましたが、その辺は設計上できるかどうかという検討課題かなと考えております。

②は、年齢で優遇していくことを考えていきたいと思っています。

③の隣接の公園ですが、これも先ほどご説明したように、ここもプレイスの場合であるので、何かしら青少年に利用を促せるような方法を考えていきたいと考えております。

④⑤が今後かなりの課題になってくるのかな、運営面でどういうふうに青少年とかかわっていただけるのかなということを考えていきたいと思っています。

以上です。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

新谷先生に、今のレポートについてご意見なり補足なりお願いしたいと思います。

○新谷委員 いろいろとデータを用意していただきありがとうございます。市内のいろ

いろな場所の感覚や人の移動の感覚がわからなかったので、知りたかったのですが、大分つかめてきました。

前回申し上げたことを2つに大きくまとめると、余り教育的になり過ぎないことというのと、目的的な利用に対して状況的な利用を重視した方がいいのではないだろうかという提案をしました。

それで、今回いただいたデータとの関係でいいますと、全体の若い人たちの人数とか動き方に対して、どういうふうな空間施設配置みたいなのが今の段階でとれていて、それにプレイスがどういう位置づけで加わるのがいいのかというところを少し考えてみたのです。

1つは、動き方で驚いたのは、人口が13万人ぐらいのところでは移動している人が駅の乗降客の片方の列だけを計算しても3倍ぐらい、35万から40万近くの人が移動している。移動している人の数が非常に多いんだなというのに改めてびっくりすると同時に、吉祥寺がその移動の中心になっているのに対して、相対的にみれば武蔵境はそれほど移動している人は多くない場所ですので、多分地域の方がメインで利用していただく施設としてはいい位置にあるのかなと思います。

30ページのところに、今までの事業のまとめをしていただいているのですが、社会教育とか、今まで行政がやるものの中で中高校生の世代が対象になるものは、リーダー養成が中心だったんですね。リーダー養成をやられていて、それはそれで大事だと思うのですが、リーダー養成、指導者、支援者としてではなくて、10代の若い人そのもののニーズみたいなものを満たす場所というのは、意外に学校以外の場所では少なくて、そういう意味で今回の施設の意義は大きいかなと思います。

それから、後ろに調査の紹介がありましたが、これは全部送っていただいて見ていたのですけれども、このきょうの資料にはないところで、「毎日が退屈である」という項目に対して、「そう思う」と「ややそう思う」で32.4%が答えていて、高校生の男子は50%なんですね。意外に時間をもてあましているだろうというところがあると思います。その一方で、「やりたいことができない窮屈感がある」という質問に対しては、45%が「そう思う」「ややそう思う」と答えていまして、退屈だけど何かやれないみたいなのところがあるらしいことがわかるんですね。そういう意味では、10代そのもののニーズが満たされる場所というのは、全体としてやはり足りてないのだろうなということがあると思います。

ほかの施設などが、どれぐらいそれに対してこたえられるのだろうかというところを考えたときに、きょうの資料でストリートスポーツ広場というのがあるというのを見て、こ

れはまだ見たことがないのですが、居場所的というか、ある種目的的ではあるのですが、外に設置されているというので、状況的な利用に近い利用の仕方が可能な場所だと思います。あと体育館のバスケットの方が特にそうだと思うのですが、自由利用の時間帯をついているというので、そういったものはかなりニーズにこたえているかなと思います。

そのほかに、傍聴者の方から、学校開放をもっと利用できるのではないかというご意見があったと思うのですが、これはきょうの資料にはないのですが、現実的にどれぐらい可能なのかなというのがあります。来年度から、厚生労働省と文部科学省のあれで全児童対策を全部の小学校でやりましょうという話が出てきていますので、小学校の施設自体はかなり小学生対応に特化してやっていくのではないかなと思うんです。その辺で中学生以上の世代がどれぐらい利用可能なのかなというのがありますし、中学校は部活動で使用されている割合がかなり高いと思いますので、そこがどれぐらいその他の利用の場になり得るのかなというのがあります。

それだけではなくて、学校という場の意味みたいなのが居場所感にはすごく影響してまして、居場所がないと感じる人にとってほど、管理されるとか指導されるイメージが学校にはどうしてもつきまとっているの、そういう意味で、学校はできる限り有効利用した方がいいと思うのですが、そのあたりがどれぐらい可能性が広がっているかというのは少し冷静に見た方がいいのかなと思っています。

先ほどの生活意識の調査の中でも、「学校生活で何かと息苦しさをを感じる」という質問に対しては、42.2%が「そう思う」「ややそう思う」と答えています。それから、「いつも自分の居場所がない感じがする」という質問に対しては、25%が「そう思う」「ややそう思う」と答えているのですが、居場所がない感じがする25%の中で、学校生活で息苦しさをを感じる割合を見ると80%なんです。その居場所のなさみたいなのが、学校での息苦しさと関連しているというのがわかりますので、学校はどこまで期待していいかというのは、かなり限定的に考えた方がいいかなと思います。

それから、コミュニティセンターなんですけど、きょう来る前に境南のコミュニティセンターを見てきました。その途中に公園があつて、いい公園があるなと思って見てみたんですけど、お願いというのが書いてあつて、「中学生以上のボール遊びはご近所の迷惑となるのでやめましょう。武蔵野市」とあつて、やはりそういう制約がどうしてもついてしまうのだなと。すぐ近くに戸建ての家が隣接しているところだったので、やむを得ないのかなと思いますが、そういう制約がありました。

コミュニティセンターの方は、多分境南が一番体育室が大きいところだと思うのですが、どれぐらい利用できるのかなと思って週の予定表もいただいて説明していただいたのですが、夜の6時から9時20分までで、自由利用できる日が2日間あります。土日は一応全部の時間が自由利用みたいなのですが、平日は水曜日と金曜日が自由利用で、火曜日は卓球とインディアカという2つの種目に限られてはいるのですが自由利用になっている。2時または3時から6時前までは子供の時間ということで、小学生、中学生が自由利用できる時間になっているようでした。

実態としてどこまで若い人の利用があるのかはちょっとわからなくて、きょうは申し込み利用の日だったので、夜は社交ダンスのグループが使うみたいでした。小学生、中学生の子供の時間のときにどれぐらい利用があるのかというのを伺ってみたら、中学生はやはり少ないということでした。バスケットボールはできないそうで、体育室ということでやわらかいボールしか使えないので、そういう意味で中学生の利用は少ない。

夜の時間は中学生はいないのですが、若い人はいますかと聞いたら、近くの大学、獣医大(?)とおっしゃっていたかな、その学生が来ますという形で、それ以外はどれぐらいなのかは、その場にいらっしゃった職員さんに聞いただけでするので実際の数字としてはわからないのですが、そういった感じで、比較的広い体育室があってもなかなか思いっきりボールを使って遊べるというところまではいかないのかなという感じがしました。

武蔵野プレイスに関しても、体を動かすことのニーズそのものにこたえるのが目的の施設ではないので、どこまでそれをといると難しいところがあると思うのですが、状況的な利用を可能にする中で、少し体を動かしても大丈夫な部分というのはある程度……。面積がどれぐらいかということは、どこかに書いてありましたか。パーツと見て見つからなかったんですが、プレイスペースの面積を教えてくださいたいと思います。きょう見たコミュニティセンターの体育室は475㎡ぐらいだったと思うのですが、それと同じぐらいなのか。もっと狭いかもしいないですが。

それから、施設以外でいうと、先ほどもイトーヨーカドーの地下のところとありましたし、あと前回会議が終わった後に、傍聴していた方に、この辺でダンスの練習をしていますよとか、スケボーをやっていますよと教えていただいて、見に行ったらダンスの練習をしているところとかはあったのですが、そういう空間を設けることは大事だと思います。それが先ほどの公園とプレイスとのつながりの中で、うまくプレイス自体がまちとつながることが可能になると思いますので。例えば外でダンスをやっている人は、プレイスの前が

ダンスできる場所になれば、そこでもダンスの練習ができて、中の施設と何らかのつながりを持って利用者になるということもあると思いますので、そういった意味で公園とのつながりというのを考えていただけたらなと思っています。

スタッフのことはどう考えていいかわからないのですが、児童館がもう少しあるかと思っていたのですが、1館で、居場所的な感覚に関しては、児童館の職員さんというのは感覚として結構持っていらっしゃる気がするので、プレイスのスタッフとの何かしらの交流といいますか、スキルなんかの交流も含めてできる機会があるといいと思います。

それから、先ほど木村さんもおっしゃっていましたが、中高校生のリーダー養成講座を受けた子供たちがプレイスの運営の方にかかわるという可能性も見ていけるといいのかなと思いました。前回もいいましたが、リーダー養成講座を受ける子たちというのは、とても一部で、若者全体からすると特別の傾向性を持った子たちになりやすいと思いますので、利用者の中からの意見をいってくれる層と、運営そのものに中心的にかかわってくれる層というふうなものを考えて、運営そのものにかかわってくれる層というのをつくるのは結構難しいので、それを中高校生のリーダー養成講座との連携でつなげていけたらいいかなと思います。

ゆう杉並の方も、中高校生運営委員会のメンバーというのは、学校代表と利用者からの代表というので半々の人数でやっていますので、そういったやり方が実際的にやりやすいし、ニーズが反映できるやり方になるかなと思います。

以上です。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

先ほどのプレイルームの面積は、わかりますか。

○事務局 面積は、約 150 m²弱で、天井高が 4.8m 程度。バスケットのフワツとしたボールをやるとちょっと当たってしまう。状況的にはバスケットはちょっと厳しいかなと。ただバスケットのゴールは、一応 1 つ設置を予定しています。

あと学校開放等は、またデータをそろえてお出しするようにします。ちょっと個人的な話なんですけど、校庭でナイター設備があるところがあって、団体登録はしなければいけないのですが、そういうところで若い人のサッカーチームが練習したりしているとか、体育館を平日夜間バスケットに利用している若者のグループはいます。この辺は、またデータ的にそろえてみたいと思います。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

ほかの委員の皆さん、ご意見を。今の新谷先生の

○栗田委員 中高生ということで、特に高校生は、ボランティア関係の方で1つの動きと
いいますか、例の奉仕活動を必修化するというのが来年度から始まりますよね。武蔵境と
いうところの武蔵高校なんですけど、1学年 300 人ちょっとというところで、30 時間とっ
ています。活動だけで 30 時間になるのか、少しオリエンテーション的な時間を入れてそ
うなるのか、ある程度の時間数というのは。その辺の動きが、やるからには生徒の自発性
を尊重するような活動のあり方というのを追求してもらいたいと思っているのですが、ち
よっとその辺がこの施設の利用の方に影響を与えるかもしれないということがあります。
学校の中だけで済まないだろうと思うんですね。ことし研究指定校みたいになってやって
いますので、桜堤あたりのサンヴァリエの防災の方に少し手伝ってもらったりしているん
ですけれども、全体 300 人ともっと大きくなってくると、どういうふうになってくるのか
ということがありますので、その辺の影響を見ておいた方がいいと思います。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

ほかにご意見ございませんか。

きょうは、フォーラムとか他施設との連携とかについてのご説明をいただいたのと、青
少年活動、市民活動について前回の続きで勉強してきたわけですが、これで全部理解でき
たかということ、まだまだわからないことがあります。

今まで伺ってきて一番難しそうなのは、全体が図書館であるという考え方がありまして、
図書館機能とそういったほかの機能をどういう関連で全体を組み立てるのが一番いいのか。
その辺いろいろ問題がありそうな気がしております。

図書館についても、きょうまた資料をそろえてくださっているの、それをまず伺いた
いと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局 それでは、図書館機能について資料をご説明します。

44 ページをお開きください。

図書館機能については、一番のかなめになっていますので、この辺のご議論が一番重要
になってくると思いますので、これは事務局として頭出しという形でお出ししたもので
すので、そういう形でご理解いただければと考えております。

まず一番上ですが、「館全体に図書館機能を」と『ブラウジング』の意義」ということ
で、ざっくり3つ挙げました。

「貸出型の図書館機能を基本に、さらに滞在型の図書館機能への対応」ということで、

これは「ブラウジング」機能かなと思います。それから、「ゆったりしたスペースに気持ちのいい読書環境を整える」、それから「複合施設の利点を活かし、市民活動や青少年活動と図書館機能とが有機的連携を図る」というようなことで、これだけで言い尽くせるとは思わないのですが、ざっくりこういうものがあるということです。

こういうものに対しまして、課題として2つほど挙げさせていただきました。ほかにもあるかと思いますが、とりあえず図書館の観点から挙げた課題です。

1つが、来館者の9割が図書館利用者であり、図書館利用者の目的は、求めている本を容易に探すことであり、本はできる限り集約といいますか、見つけやすいのが理想であるという考えがあります。

もう1つは、「課題2」ということで、本が分散されていることは、各フロアに図書館カウンターを配置し、レファレンスに対応する職員も必要であるということになります。それから、今回開館時間と開館日数の拡大を考えておりますので、さらに人員配置が必要になってくるということです。もちろんICチップによる自動貸出やBDSによるゲートチェックは大いに活用していこうというのが前提でございます。

この2つの課題に対して、前回ご説明した庁内検討委員会の提案というのがどういうふうに対応しているかということ、一応簡単に整理をしております。

1番目が、資料管理やレファレンスにきちんと対応するためということで、各フロアにカウンターが必要である。端的にいうと、読書のフロアに図書館カウンターがそれぞれ必要であるということで、これは課題2の人的配置の課題になると思います。これについては、今後のご議論の課題になるかと思えます。

次の2つなんですが、地上2階の専門図書コーナーに、この間ご説明したように児童図書との連携を図るため、生活系の図書を配置して、子育て支援的な形にしていきたい。ということによって、2階に予定していた専門図書自然科学系を地下1階におろすということで、地下1階が、一般図書についてはそろっているというような形で、とりあえず地下1階に行けば一般図書は探し当てられるということで、これは課題1への対応になると考えています。

それからヤングアダルトは、当然青少年と関係があるし、地下2階については、地下1階とできる限り一体感を持たすということで、これも課題1に対応できているかなと。

それから雑誌・新聞について、4階の趣味系の雑誌と3階の人文系雑誌・新聞、2層にまたがっているということに対しては、管理面から1層に集約することが望ましいという

ご提案をしたところなのですが、これもいろいろご議論があるかなと考えております。雑誌については、週刊誌以外は貸出をすることについても、またご議論いただければと思います。

貸出、返却、予約の受け渡しについては、1階に総合カウンターみたいなものを設けるというのは、課題2の方に対応できるかなと思います。

先ほどいったICチップ、BDSも、課題2の方によく対応できればと考えております。

知のギャラリーについては、もうちょっと具体的な内容を今後詰めていく必要があると考えています。

最後の作業スペースは、当然必要なもので、これは十分確保する。

それから右側の図ですが、今の図を整理しますと、まずメインライブラリーは、今申し上げたように一般図書をそろえるという形になります。地下2階の芸術系の図書は、メインライブラリーとうまく一体感を持たせるような形でやって、わかりやすいようにしていく。地下2階のスタジオラウンジには、青少年の好むような雑誌をそろえていく。1階については、貸出・返却・予約資料の受け渡しができるメインカウンターを設ける。2階については、児童図書と生活図書。それから2階には託児室もありますので、子育て支援的なフロアにしていければと考えております。

今の5点については、ある程度課題の解決につながっていると私は考えております。

もう1つの課題の整理なのですが、この図の丸の大きさが本のボリュームというふうにお考えいただければと思います。B1と2階はほぼフロア全体が本のボリュームで、メインライブラリー、サブライブラリーですからほとんど図書館なのですが、B1と2階をつなぐ1階の知のギャラリーというのは、本のボリュームとしては2,000冊程度ということで小さくなります。3階と4階の雑誌は、半分ずつの配置になりますので、フロアでいうと3分の1程度というような形になると思います。現状でこれがうまくブラウジングとして回っていいのか、またこの本の配置のバランスがいいのか悪いのか、この辺を十分専門家の先生方でご議論いただければということで、ちょっと偏りがあるかもしれませんが、一応頭出しということで資料としてお出ししました。よろしく願いいたします。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

庁内検討委員会の提案というものが前回、前々回ありまして、それに対して多少議論したことを踏まえてこういうのをつくっていただいたわけですが、この委員会としてはこれ

にとられる必要はなくて、いやいや問題はもっとほかにあるというご意見の方もおありだと思いますし、できるだけ問題を広げて検討していきたいと思います。

きょうはあと 30 分ぐらいしかありませんので、この問題はきょうだけではとても議論できる話ではなくて、多分一番大きな問題として残ってくるかと思いますので、きょうはまずフリートーキングみたいなことで、委員の方々、図書館のあり方について、これが問題ではないかとか、こうした方がいいんじゃないか、あるいはこの辺はぜひこのとおりがいいとか、何でも結構ですから、まずフリートーキングをしていただきたいと思います。

では、まず清水先生からどうぞ。

○清水副委員長 フリートーキングということですので、自分の立場を出して意見を申し上げてよろしいですか。

○鬼頭委員長 はい、結構です。

○清水副委員長 私自身は環境デザインの専門家という立場で話をさせていただきます。

北側に公園がございますね。本施設を、それと一体に考えるというので、非常にうれしいと思うのですが、提示されている設計案ですと 4 階建てになっているので、もうちょっと工夫して、公園とさらに一体化できる方法がないものか。もちろん、この施設の目的や内容については、これまで時間をかけて練り上げられて来ておりますし、このようなものはぜひ欲しい。でも、できるだけいろいろ検討してみて、わずかでも削れるところがあれば、公園との一体化ということに反映させていいのではないかと、とも思うわけです。

たまたま先日金沢に行くことがありまして、金沢の 21 世紀美術館というのに行きました。1 階建てです。上の方にボコボコ箱が飛び出している。美術館に必用な天井の高い展示空間や広がりをとるために、全体を大きな建物にしてしまうのではなくて、各展示室の部分だけ必要に応じて箱をボコボコと飛び出させていますので、大体は 1 階部分の天井高で成り立っているんです。

そこを訪れて、2 つのことを感じました。

1 つは、非常に伸びやかです。外側から中が見える。周囲に誰でも入れる豊かな広がりがあるので、これが成り立っているのですが、内部では、今回我々の拳闘している施設とかなり似ていまして、いろいろなことが展開されています。美術館という今までの概念とちょっと違う。地下と 1 階だけですが、地下ではちょうど私が行ったときには日本の建築家協会の方の提案展というのが行われていて、そこにはこの委員会の座長を務めていらっしゃる鬼頭先生の講演会のお知らせが出ておりまして、その講演会を行う場所とか、とて

もおいしいレストランがあったり、ミュージアムショップも随分充実していました。

最近のこのような美術館なりの考え方というのは、非常に多様なものを取り込んでいて、それをどのように運営するかというのが、また課題になっているわけです。この美術館は、鬼頭先生は詳しいでしょうけれども、メインの展示会場は夜6時あるいは8時に閉館しますが、たぶん先生の講演なされたようなスペースは10時まであいているんです。レストランも10時まで開いています。ですから、活動が朝から夜まで非常に活発に行われていまして、それを支えているのがさまざまな市民のボランティアです。ボランティアだけではありませんけれども。

たくさんの展示室に分かれていますから、今回の検討対象とちょっと似ているのですが、美術館というのは普通、展示品が大事だということで、部屋の隅にイスが置かれていて、眠たそうな人が座っていますよね。この美術館も部屋ごとに人はいますが、眠たそうじゃないんです。ちょっと質問をすると、その展示について勉強していて、ちゃんと答えてくださる。それから、レストランも、先ほどいいましたように10時までやっていて、このレストランだけに来るといふ人もいるらしいんですね。レストランに来て、その周辺の美術品を眺め見るといふようなことで、従来の美術館とは、目的すら逆転している部分がある。ともあれ、このように多様な展開が、高層化することなしに実現されているということが印象的でした。また、私たちのプレイスとは、盛り込まれている内容も、またスケールのにも違いますけれども、さまざまな要素を一つの空間の中に展開して、それを運営して行くためのソフトも、市民参加のやり方でいろいろできるのだと知って、非常に心強く感じられた次第です。

戻りますと、私としては、いろいろ工夫して、わずかでもボリュームが減らせられたら、北の公園の方にも、より光がおりののではないかと考えるわけです。そういう観点からしますと、4階と3階に分かれているマガジンラウンジと新聞コーナー、これらをまとめる可能性も一応は検討してみたい。

それから4階のフォーラムは、こういうのがあったらもちろんいいんですけれども、前々からの経緯をきょうご説明いただきましたら、例えば8ページの新公共施設の基本計画策定委員会のところに、ほかの施設との連携という言い方があって、スイングホールとの連携というようにことをいっています。「連続立体交差事業の完成後は」といっているのですが、これは今までの武蔵境のまちとは今後は違うということをおっしゃっていると思うんですね。つまり鉄道が高架で上に上がりますと下はツウツウと通れますから、今不自由をかこって

いる南の方々も、北と一緒にいろいろなことができるということです。それから9ページの農水省跡地の利用云々というところにも、スイングホールを本格的な発表の場として活用するほか、こうこうこういうような文化的関連施設とも連携して活用を図るなどといったところがあります。

となると、今度はスペースの問題で、10ページを見ていただきますと、スイングホールは確かに音響的なものもちゃんとしていますから、ここで発表会を予定するので、今回我々がやろうとしているプレイスにはそういう機能を持たないというのはわかります。けれども、プレイスで持とうとしているフォーラムは、講演会などが目的ですよ。これは想定は何人収容でしたか。

○事務局 フォーラムは、講演会等であれば200人ですが、机を並べると半分の100人ぐらいです。

○清水副委員長 現在我々がディスカッションしているここスイングには、いろいろなスペースがあります。今日、この会場に何人いらっしゃるのかわかりませんが、このような多目的に使える場所がプレイスの近くにあるのであれば、そっちの箱でもやれるのではないかなと思ってしまいますね。もちろん、いろいろな催し物が1つのところでできればとてもいいかもしれないのですが、45ページの断面図で一番上の4階にあるフォーラムが200人の収容なら、スイングでできるかもしれない。それから、マガジンラウンジというのも、3階の新聞コーナーに合流させられるかもしれない。そのような検討や努力を少しずつ積み重ねていきますと、最上階の大きさや形状も変わる可能性があるのではないかな、そんなような気もしております。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

大変具体的なお提案がありまして、フォーラムは要らないんじゃないかというのは、なかなか大きな問題で、そうですねともいけませんとも私がいえる話ではないのですが、集会室というのは大変需要が多いということは確かなようですね。ですから、その辺の需要予測をどう見るかというのは、行政の方の1つの課題じゃないかと思います。

ほかの先生方、いかがですか。

○近藤委員 いろいろお話を聞けば聞くほど、このプレイスに対する期待がちょっと盛りだくさん過ぎるのかな、もう少し絞った方がいいのかなという気がするんですね。

図書館というのは今のまま進めたいとは思いますが、そのほかのNPOとか市民活動、それから青少年、青少年も大学生から小学生まですべてを対象にしたプレイスというのは、

この場所とこの大きさでは無理なんじゃないかと思うんです。ですから、小学生をターゲットにしても、結果として実は大学生が利用することになるかもしれないし、市民講座と思っても、もしかしたら小学生の活動の場になるかもしれませんが、すべての人が、小学生だったらこういうふうには、中学生だったらこういうふうには、大人ならこういうふうには、NPOならこういうふうにはというように、分けて機能性を持たせようと思うと、余りにも分割した細切れの機能を持たさなければいけないような気がするのです。

特に青少年は、小学生と中高生では、彼らが求めているものは相当違うと思うんです。ちょうどコミセンをごらんになったということですが、私が一番最初の清水先生と同じ委員会のときに、いろいろなコミセンをのぞきに行って、境南も見ただけです。平日の3時過ぎだったと思うのですが、小学校の家に帰っても仕方がない子供が、体育館と、あとは畳の部屋にポケットと転がっているんです。遊ぶでもなく、何するでもなく、ちょっといじめっ子風の男の子とか、親が帰ってくるまで行きどころがない、もちろんお小遣いもないというところで、そこでゴロンとして本を読んでいる。

それはそれで結構かもしれないけれども、そういう子供たちを対象にするのか、それともジャンボリーのように組織化された活動で何かをしようとするのかによって、青少年のための機能のあり方も物すごく姿が違ってくると思うんです。どうぞ自由に勝手に遊んでくださいといったときに、果たして小学生たちがどうするかなと思うと、あのコミセンの寒々しい風景を思い出すと、ターゲットというか目的をもう少しイメージとして絞り込んだ方がいいのかなという気がしています。

NPOについては、NPOの活動について私も余り見識がないものですから申し上げられないのですが、あくまでも印象として、ばかといわれるかもしれませんが印象として、特定のグループの特定の利益のために特定のスペースが使われることに対する反発が、どこかに起きないかなという不安はあります。その辺を上手に、使うのであればある程度ペイするみたいな運営をこれからもう少し検討していかないと難しいのかなということを印象として今思いました。

とりあえず感じたことだけですが。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

事務局に伺いますけれど、このプレイスの案では、青少年対応というのは、どの辺を考慮しておられるんですか。小学生も考えているんですか。

○事務局 あらゆる世代に対応した施設というのは紛れもないのですが、一応青少年とい

うのでターゲットとしているのは中・高・大学と考えています。

○鬼頭委員長 新谷先生、一番対象にしなければいけないと思われる年代はどの辺ですか。

○新谷委員 個人的には、中学生から 10 代後半までで、なおかつ大学生というよりは、むしろそういうところに所属しない層。あるいは中学生、高校生の場合でも、部活動に参加しない層、高校に行けない層、あるいは定時制や通信制の高校に行っている層みたいな子たち、特定の組織とか機関に所属しない層が、ある種の状況的なものを想定すると、それ自体に目的があるというような状況的なところから、図書館あるいはその他市民活動なんかにつながっていくチャンネルがそこでつけられたらいいのではないかということで、そういう層を想定しています。

○鬼頭委員長 ありがとうございます。

確かに近藤先生がいわれるように、何でもかんでもというのではなくて、もう少し絞った方がいいんじゃないかという気は私もしないではないのですが、しかし今最初の委員会から今日までのあれを見ていると、私はそんなに詳しく経過を知っているわけではないのですが、多分当初は、ここにはないこれが欲しいという要求は山ほどあったんだろうと思うんですね。それはとても全部は入れられないほどいっぱいあって、今までの委員会はそれをどうやって絞るかということに大変苦勞をされてきたんじゃないかなと、その辺私の憶測もありますけれども。それで知的創造の拠点という枠で1つ縛ったというようなことで、多分ようやくここまで詰めたのではないかなという気がいたします。

市民の要求というのは非常に多様で、いろいろな方がおられて、こういうものがぜひ欲しいという方もおられますし、要らないという方もおられます。もしその辺の問題に返ると、全部もとに戻って考え直さないと答えが出てこないと思うんですね。ですから、私はどこに加担をするわけではないのですが、今まで非常に時間をかけて詰めてこられた経過というのは、やっぱり一方では尊重しなければいけないだろうと思うんです。尊重するからそのとおりがいいというわけでは必ずしもないのですが、やはりここまでに至ったやむを得ない事情というのがいろいろ重なってきて、ここに来ているのではないかなと思います。それにしても本当にこれでいいのかということは、もちろん問い直していくのですが、ちょっとそんな気がしております。

ほかの先生方、どうぞ。

○小林委員 おっしゃるように平成 13 年とか、昔からいろいろな議論をなさってきたからこそ、こういうことになってきた。ただ、それで時間がたち過ぎてしまったのではない

かなという気がちょっとしてしまうんですね。今本当に初めてこれを見たというような人の目で見ると、やはりまだ盛りだくさん過ぎてしまい、各機能の人たちがバラバラにやってきて、触れ合いもせずに帰ってってしまうのであれば、何も一緒にやっていくこともないような場所になってしまわないかなという危惧がしてしまうような気がします。それを避けるためにいろいろな工夫があるわけですが、やはり無理がある機能をまとめてしまわれている。

知の交流というのは非常に大切なところなんです、それをこの1カ所の場所だけでやるのは無理があるだろう。連携というのがすごく出ていますが、むしろこれは武蔵野市全体で進めていくべきようなことなのかもしれない。それを1つの場所で何とか枠にするというのが、今になってみるとどうなのかなということになってしまうのではないかと思います。

今拝見して、例えばいろいろな機能の中で、NPOの人はもちろん安く使える場所が欲しいし、図書館を使う人は本がたくさんあって、青少年の方たちはそれなりにというふうなのを見ていったときに、どれが一番緊急性があるのかなという、今までの議論で考えると、今格差とかが非常に広がっている中で、1つ違うと大きく将来が変わってしまうような例えば青少年の問題みたいなのは、これでいったら何となく緊急性があるようなお話に印象として見えたりするわけなんですね。本を読んでものんびりしたい、休む場所が欲しいというよりは、ちょっと1つ違えばまだまだ将来を変えていくことができるかもしれないぐらいの、そういうことのためだったら市がお金を使ってやる価値があるのかなという気がする、そういうお話と、のんびり緑を見たいのとは、またちょっと違うような感じがしちゃうんですね。

例えば、仮にですけれど、いろんな人たちが来る中で、ここは青少年を育てることを1つメインとして、例えば図書館の運営のトップというか、ある種の力を持てるようなパワフルなグループに青少年の人たちを入れ込んでしまって、かえってここで公共のためにやっていくことの活動というのが、本人とか周りとか居場所のない子たちを何か変えていくことができないかなとか、すごく斬新な考えが出るかもしれない。

むしろそれぐらいもうちょっと絞らないと、どうしても総花的に騒いでいる人たちと本を読む人たちをみんな一緒にしましょう。そのためには、という無理な話になり、なおかつお金がどんどん重なり、スペースもとっていくということになってしまうのではないかな。

斬新さが割となくて総花的になってしまいそうなのが、例えば図書館。確かに9割の人

は図書館に来るだろう。この間の会議で、私自身も、自分が図書館に行くのであったら、探している本がサッサと見つからないと嫌だというようなことを申しましたが、例えば本をどうしてもその場で探したいのであれば、インターネットで目録を全部出していただいて、自分がリクエストした本を図書館から無料で送ってもらい、読み終わったら着払いで無料で返すというふうにした場合に、それでもわざわざここに来たがるような図書館になっているのだろうか。もし探しているものが決まっているのだったら、今回はお金のことを考えなくていいというお話なので、そうすることも仮にはできるわけですね。実際にそれはできなくはない。例えば企業の図書館なんかでは、そういうことをやっているわけですから。

例えばそういうところでお金を使ってしまい、そうしたらスペースもなく、むしろ何か偶然見つけるとか、レファレンスの人と話すとか、新しいものを教えてもらうとか、それからそれに合わせて例えば青少年が来るとか、何かもう少しいろいろなものを区切っちゃうこともかえてできるんじゃないか。特に図書館というのは、本がたくさんあればうれしいわけですし、自分の欲しいものを買ってくれということになって、世界じゅうの本を買っても足りないようなところなわけですね。それを全部かなえようとするところが、結果的にだれも満足しがたい場所になっていくんじゃないかなという気がします。

今の工夫として、いろいろなものをくっつけたりとか、行ったり来たりとかというふうな分散みたいなところが大きなお話になっていますが、例えば八重洲ブックセンターとかジュンク堂とか、ああいうところは1階から10階まで本があっても、だれでも探せるようになっていますし、それで文句をいう人はいないわけです。大きい本屋は嫌だ、小さい本屋がいいという人ももちろんいますけど。でも自分の目的としているものを探しているときと、それから例えば八重洲ブックセンターに行っているいろいろな本を見ながら新しい本を探すというのは、やはり違うんじゃないか。

何しに図書館に来るのかというふうなところとか、図書館じゃなくて武蔵野プレイスに行きたいんだというふうなこととかを考えていった場合に、整理の仕方として、何かもうちょっと今の小さい工夫以外のところでの決め方も必要になるのではないのかなという気はしました。

○鬼頭委員長　ありがとうございました。

大変難しいお話なんですけど、きょうはちょっと時間もなくて、できれば今のお話を、もうちょっと具体的な形でこの次でもご発言いただけるとありがたいと思います。

栗田先生、何か。多分反論をしないといけないことも……。

○栗田委員 反論というか、盛り沢山の印象というのは、確かにあるんですが、一番最初の新公共施設云々のところにかかわった立場からいうと、やはり青少年というのと市民の方の知的創造拠点という両方のコンセプトが最初入っていたと思うんですね。それに少し欲をいって、子供たちのことを考えて居場所という部分がつけ加わっているようなところがあるのです。もともとのコンセプトからいうと、アクティブな市民なりが集まって知的な創造拠点になるし、例えば先生がおっしゃったように余り教育的ではなくて、でも大人が生き生き動いてないと子供たちも生き生きできないという感じがするので、指導するのではなくて、そういう場面で青少年にこのプレイスに来ていただいて、何か動こうということになるためには、やはり青少年だけではない、市民の動きというものもないとまずいのかなという感じがするんです。

そういう点で、知的創造拠点というような形でいうと、私なんかの意味だと、図書館の機能というのは、ほかにも図書館があるし、高等学校とか大学なんかの図書館もあるので、それこそ連携ということをきちんと考えるのであれば、先ほどおっしゃったような本を貸していただくような形の部分がうまくつながれば、ここに本がたくさんなければいけないという必要はないと思うんですね。そういう意味で、今清水さんがおっしゃったように、5層にわたって本が配置されているというのではなくて、1層、2層ぐらいを外しちゃって、本の置き場所としては3層ぐらいのところにとどめるような、そういうふうな見直しを少しした方がいいんじゃないかと思います。どこにも本がなくちゃならないというのは、そういう必要はないんじゃないかという感じはしております。それはまたいずれ話したいと思います。

○鬼頭委員長 大変ありがとうございました。

ちょうど8時半になって、図書館について、今大分挑発的なご意見が小林先生から出ておりますし、図書館としてもそのうち少し強力な意見表明をしていただきたいと思うのですが、今回は、今まで積み残してきている地下駐車場の入り口の問題と、この全体の運営の方法と運営主体の問題について、一応次回までに事務局からレポートを出していただいて、次回それをやりながら、多分半分ぐらいで済むのではないかと思うのですが、きょうのお話の続きをさせていただきたいと思います。基本設計という形で随分具体的なものが出ておりますから、できるだけ具体的に議論を進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。少し材料がそろいましたから、次回、また丁々発止と意見の交換をしたいと

思います。

どうもありがとうございました。

この前は、傍聴される方にアンケートの用紙を忘れてしまったんだそうですが、きょうは渡っていますね。またご意見をいろいろお寄せいただきたいと思います。

事務局の方から何かございますか。

○事務局 どうもありがとうございました。

毎回、毎回スケジュールの話で大変恐縮でございますが、11月29日が第6回目ということで、6回まで仮に決めさせていただいておりますが、実は以前お話をしたかと存じますが、私ども、市議会に特別委員会というのを持っておりまして、それが12月にも開かれる予定でございます。それで、一応議会とのお約束で、12月18日に特別委員会が開かれる予定ですが、一定のあらあらの方向性といいますか、出せたら出せないかということで、ご報告をできればするというお話をしております。

今、一応11月29日まで予定しておりますが、委員の皆様方お忙しいということですのでメールでも若干ご連絡をしたかと存じますが、一応12月4日の週、11日の週ぐらいに、もう一度ぐらい今の段階で皆様のご都合が合う日があれば、設定をさせていただきたいと思っております。実は小林委員と清水副委員長からはメールでご連絡いただいております、既にこの中に制約がございまして、清水副委員長と小林委員が合う日は、12月の4日、11、13という日になってしまっております。もしこの中でご都合がつく日があるのであれば、場所等は変わってしまう可能性はございますが、ぜひこの中で1日設定をさせていただければと思っております。

〔日程調整〕

○事務局 一応13日ということで、私の方で押さえさせていただいて、また詳細はご連絡いたしたいと存じますので、よろしく願いいたします。

○鬼頭委員長 では、13日が第7回ということですね。よろしく願いします。

以上ですか。

○事務局 はい。

○鬼頭委員長 どうもありがとうございました。

では、きょうの会議はこれで終わります。

(了)



武蔵野プレイス（仮称）

専門家会議資料

2006.09.28 vol.1

武蔵野プレイス（仮称）専門家会議

会議次第

日 時 平成18年9月28日（木）午後6時30分～

場 所 スイングビル10階 スカイルーム

1. 議 事

（1）生涯学習・フォーラム機能

（2）他の施設との連携

（3）市民活動機能について

（4）青少年活動機能について

（5）図書館機能について

（6）質疑

2. その他

目次

- (1) 生涯学習・フォーラム機能（P3～P7）
- (2) 他の施設との連携（P8～P10）
- (3) 生涯学習・フォーラム機能についての
庁内検討委員会検討意見（P11～P15）
- (4) 市民活動機能について（P16～P29）
- (5) 青少年活動機能について（P30～P43）
- (6) 図書館機能について（P44～P45）

○新公共施設基本計画策定委員会の生涯学習・フォーラム機能の考え方 (H13. 3～15. 2)

1. 構成

○「会議・研究・発表」のための施設

本市では、「地域単位の集会所が必要である」との観点からコミュニティセンターの施設整備を行ってきた。以来約30年にわたり、地域に根ざした市民活動はますます活発となり、さらに、個人やグループが、地域を越えて行う広域的活動が活発化している。

一方、情報化が進展しても、人と人が直接会うことの重要性に変わりはなく、市民が集まって様々な知的活動を行うには、多岐にわたる活動の形態に対応できる会議室、打ち合わせスペースなどが不可欠である。

駅前という恵まれた立地条件をもつ本施設では、仕事や学校帰りに、それぞれの地域（家庭）に帰る途中で、学習や読書などに利用したり、人々が一堂に会してフォーラムを開催・参加するなどの知的活動を行える機能が求められている。

したがって、人々の多様な知的活動を可能とする施設を設置し、利用者の自主的な活動を「場」の提供を通して支援する。

具体的には、研究や学習空間として、学習ブース及び研究・学習室を設置する。これらは、図書館機能とは分離して学習・研究・調査活動を支援する空間・機能として設ける。

学習ブースは個人単位の利用に應えるためブース形式とし、図書館の閲覧室としての役割も担うとともに、青少年にニーズの高い、自宅や学校以外に学習できる場としての活用も可能なものとして設置する。研究・学習室は複数人数で研究、学習する場として設置する。

また、大小様々な会議に対応できる会議室を設置する。特に、大会議室は、研究や創作活動の発表の場として、講座、会議、イベントなどが行える多目的な空間とする。

施設構成	主な施設	用途例
「会議・研究・発表」のための施設	学習ブース	個人の学習・研究・調査活動 (図書の閲覧機能を併せ持つ)
	研究・学習室 (小規模)	複数での学習、研究、調査、成果の発表 (図書の閲覧機能を併せ持つ)
	会議室(中・大規模)	会議、講座、イベント

2. 事業展開の考え方

(1) 施設利用（利用支援）型

個人または団体が、自主的・自立的な知的活動を展開するために施設を利用する事業形態を言う。

その際、管理運営主体は、単なる施設の貸し出しだけではなく、施設をより効果的、効率的に利用してもらえるよう施設利用についてサポートする。また、多様な人々が集まり交流するメリットを活かすために、利用者の知的活動が他の施設利用者にも影響を与えることができるような工夫も必要である。

<留意点>

- ・さまざまな利用に対応できる柔軟な体制を整備する。
- ・スタジオ機器の使い方講習やワークルームの利用ガイダンスなど、新しく施設を利用しようとする個人または団体が、無理なく施設を利用できるサポート事業を実施する。
- ・利用者が情報を検索し、取り込み、整理し、加工し、使いこなすとともに、新しい情報を生み出し、表現するスキルの習得を支援する。
- ・青少年や市民団体の活動が活発になるよう、場の提供や情報の提供などを行うことにより、その活動を支援する。

(2) 自主事業型

本施設において管理運営主体が行う自主事業については、主催者（サービスを提供する）と利用者（サービスを楽しむ）の役割が固定化しやすい従来型の自主事業を脱し、利用者の活動を支援することを目的としたレクチャー、フォーラム、ワークショップなどの事業を企画運営するものとする。

特に、青少年（中学生）向けのプログラムの実施については、周辺大学等との連携や協力により高校生や大学生の参画を促すしくみを工夫する。

また、知的創造拠点として積極的に参画すべきであると思われる事業については、コンソーシアム型*等柔軟な実施形態を取り入れ、講演会、公開講座、シンポジウムなどの知的活動を推進するものとする。

*コンソーシアム：学校や団体の連合、提携、協会の意。本施設の場合、例えば、管理運営主体が外部の組織（教育機関、研究機関、NPOやNGO、企業など）と連携して、多様な知を結集した事業展開を行うことが考えられる。共同事業実施型。

<留意点>

- ・ワークショップなど自主事業の企画運営においても、ボランティアグループやNPOなどと協働して取り組む。
- ・子どもたちのリーダーとなれるような人材育成などの事業を展開する。
- ・事業の検討・企画の段階から、青少年がプログラム作成に加わるような事業のあり方を検討する。

- ・事業運営の際には、地域の大学と連携したインターンシップの導入や地域のボランティアの参加を促進する。

○農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会報告書での生涯学習・フォーラム機能（H16.5～17.3）

★フォーラム（「会議・研究・発表」のための施設）

「会議・研究・発表」のための施設として、フォーラム（大会議室）、各ルーム（研究・学習室）、スタディコーナー（学習ブース）を設置する。（これらを総称して「フォーラム」と呼ぶ。）

①「フォーラム」（大会議室）

フォーラム（大会議室）は、主として会議、講座、イベントを開催できるよう、収容人員を200人程度とし、視聴覚機能を備える。ここでは、武蔵野地域自由大学などの生涯学習事業や映画会・おはなし会などの自主事業を行うほか、市民の自主的な活動・発表の場として活用する。さらに、知的交流の拠点として位置付け、市内外の様々な有識者を招いて開催するレクチャーシリーズ「武蔵野フォーラム（仮称）」などを開催する。市民は、高い知的業績を誇る講師の研究成果や活動などについて間近に触れることができ、また、それらの議論に加わることができる。

②「ルーム」（グループ学習・研究・調査・発表の場）

研究、調査などの成果発表の場あるいはグループ学習の場として、大きさの異なる数種類のスペースを用意する。（「ルーム**」の**は部屋の面積（㎡）を表す。例えば、ルーム20の場合、20㎡程度の部屋となる。）

③「スタディコーナー」（個人の学習スペース）

スタディコーナーは、誰もが使える「市民の第二の書斎」として、緑が間近に見える場所に設置し、静寂で快適な学習環境を提供する。また、ここでは、施設内の図書を持ち込むことが可能であり、多様な学習・研究・調査活動などを行うことができる。また、情報コンセントや無線LAN環境を整備することによって、利用者各自がパソコンを持込んで研究や調査などができるようにする。

管理運営方針 ★生涯学習事業

本施設において、生涯学習事業はひとつの柱であり、市民の多様なニーズに応えられるサービス提供が求められている。現在、生涯学習スポーツ課で行っている武蔵野地域自由大学をはじめとする生涯学習事業や市民会館の講座等の事業を再編し、本施設を管理運営する指定管理者が、生涯学習プログラムとして実施することが望ましい。

○武蔵野プレイス（仮称）基本設計の生涯学習・フォーラム機能 （H17.4～17.10）

○フォーラム、スペースの構成

利用1	利用2	用途
ミーティングスペース（6人テーブル×6）		予約なし。フリースペース
スペース25（10人用）		小会議
スペース25（10人用）		小会議
スペース40（20人用）	スペース40+50（50人用）	中会議
スペース50（30人用）	（可動間仕切りにより2室を1室利用）	中会議
スペース40（20人用）	スペース40+50（50人用）	講座、中会議
スペース50（30人用）	（可動間仕切りにより2室を1室利用）	
フォーラム（200人用）	フォーラム（机使用時100席）	フォーラム、講座、大会議
スタディコーナー（60席）		個人の学習・研究・調査活動

○フォーラムスペック

座席数 200 席/机使用時 100 席/約 200 ㎡/スクリーン・パソコンプロジェクター

*類似施設①商工会館市民会議室/机使用 90 席/178 ㎡（収納含む 190 ㎡）

②スイングビル スイングホール/客席数 180 席

レインボーサロン 全面使用(375㎡/定員300名/机使用160名)

A (150㎡/定員100名/机使用50名)

B (225㎡/定員150名/机使用80名)

スカイルーム1 (75㎡/定員40名)

スカイルーム2 (80㎡/定員40名)

スカイルーム3 (81㎡/定員34名)

○フォーラムを中心とする生涯学習事業の展開

- ・利用者の活動を支援することを目的としたレクチャー、フォーラム、ワークショップなどの事業
- ・コンソーシアム型*等柔軟な実施形態を取り入れ、講演会、公開講座、シンポジウム
- ・青少年（中学生）向けのプログラムの実施については、周辺大学等との連携や協力により高校生や大学生の参画を促すしくみを工夫



- ・市内外の様々な有識者を招いて開催するレクチャーシリーズ「武蔵野フォーラム（仮称）」などを開催
- ・武蔵野地域自由大学などの生涯学習事業の武蔵野プレイス（仮称）での事業展開
- ・周辺大学との連携（例：模擬大学講義の開催…）
- ・映画会・おはなし会などの図書館事業の展開、新たにビジネス支援企画の展開
- ・スタジオを中心とする青少年向けプログラム（青少年の好む音楽やスポーツをテーマとする講演会の企画）

○利用形態

階	施設機能	使用例
4F フォー ラム	フォーラム (200人用) (机使用時100席)	(図書館) 映画会・ビジネス支援事業等 * 講座などの催しがない場合、マガジンの閲覧スペースとして開放 (講座) 武蔵野フォーラム・生涯学習講座等 (団体等) 市民活動等団体・自由大学受講生・個人利用
3F 市民オ フィス	ミーティングスペース	(図書館) グループ学習 (団体等) 市民活動等団体・自由大学受講生・個人利用
	スペース 25 (10人用)	(図書館) グループ学習 (団体等) 市民活動等団体・自由大学受講生・個人利用
	スペース 40 (20人用)	(団体等) 市民活動等団体・自由大学受講生・個人利用
	スペース 50 (30人用)	(講座) 生涯学習講座等 (団体等) 市民活動等団体・自由大学受講生・個人利用
	スペース 40+50 (50人用)	(講座) 生涯学習講座等 (団体等) 市民活動等団体・自由大学受講生・個人利用
	スタディコーナー	〈個人〉学習・研究・調査活動
2F	読み聞かせ室	(図書館) おはなし会・乳幼児向けおはなし会等
B2	多目的スタジオ 100	(講座) 生涯学習講座等 (団体等) 市民活動等団体・個人、個人利用

○フォーラムの想定利用

	平日	土曜	日曜
午前	貸出(活動・発表の場)	図書館事業	図書館事業
	マガジン閲覧スペース	生涯学習講座	生涯学習講座
		貸出(活動・発表の場)	貸出(活動・発表の場)
		マガジン閲覧スペース	マガジン閲覧スペース
午後	図書館事業	図書館事業	図書館事業
	生涯学習講座	生涯学習講座	生涯学習講座
	貸出(活動・発表の場)	貸出(活動・発表の場)	貸出(活動・発表の場)
	マガジン閲覧スペース	マガジン閲覧スペース	マガジン閲覧スペース
夜間	生涯学習講座	生涯学習講座	生涯学習講座
	貸出(活動・発表の場)	貸出(活動・発表の場)	貸出(活動・発表の場)
	マガジン閲覧スペース	マガジン閲覧スペース	マガジン閲覧スペース

○新公共施設基本計画策定委員会での他の施設との連携
(H13. 3~15. 2)

★他の施設との連携

①公園との一体的管理

北側に2,000㎡を超える（都市計画）公園を有するという非常に恵まれた条件を最大限活かすためには、本施設と公園との間の管理上のバリアを感じさせないような工夫が必要である。例えば、施設の一部と公園とを同時に利用できるような一体的な管理システムを検討する。

②スイングホールとの連携

連続立体交差事業の完成後は隣接することになるスイングホールとの役割分担を明確にするとともに、双方の施設が有機的に連携し、相乗効果をもたらすように配慮する。その際、施設の管理運営にあたっては一体的な管理運営体制も検討すべきである。

③他の図書館・文化施設との連携

事業を展開していくうえで、中央図書館、吉祥寺図書館は当然のことながら、その他の市民文化会館、公会堂、芸能劇場、吉祥寺美術館などの文化関連施設との緊密な連携も不可欠である。

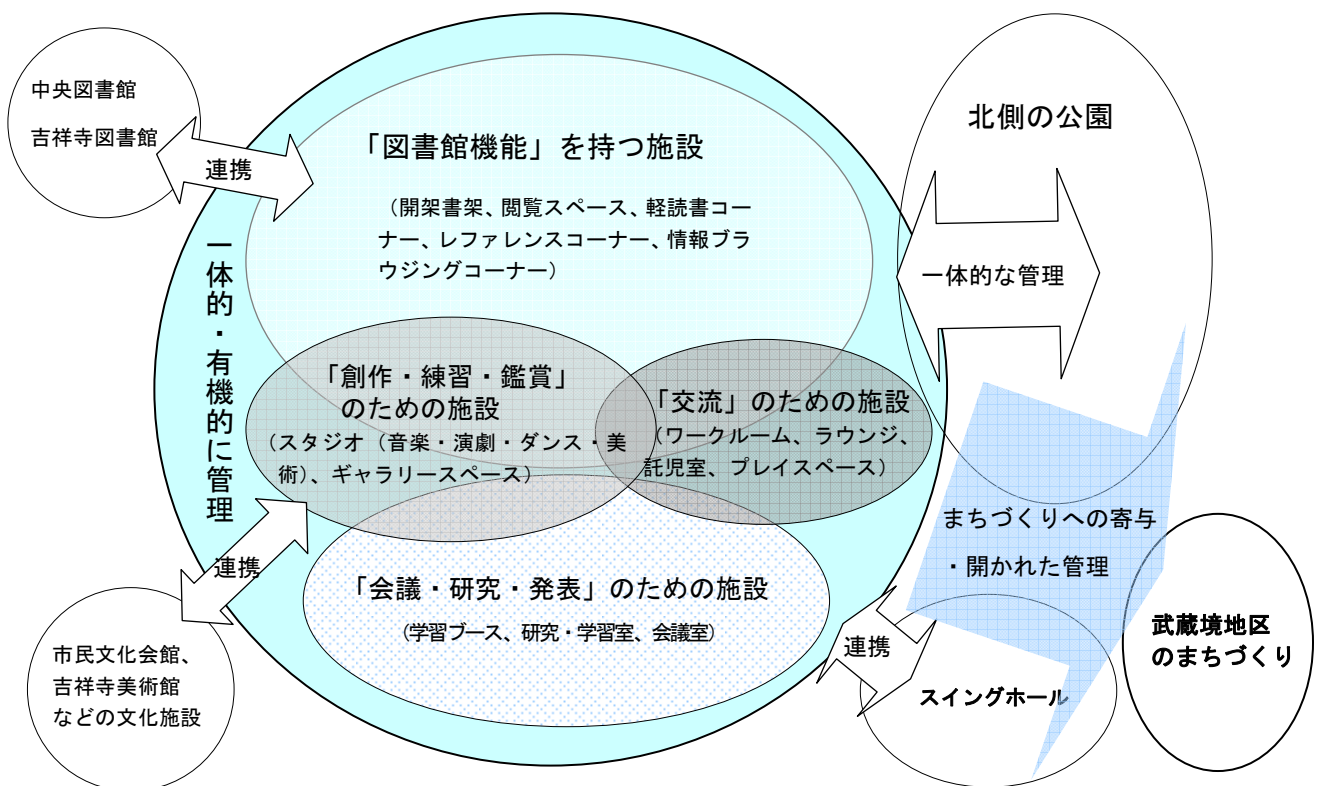


図3 「知的創造拠点」としての管理運営イメージ

★今後に向けて

○本施設と周辺施設との役割分担の明確化

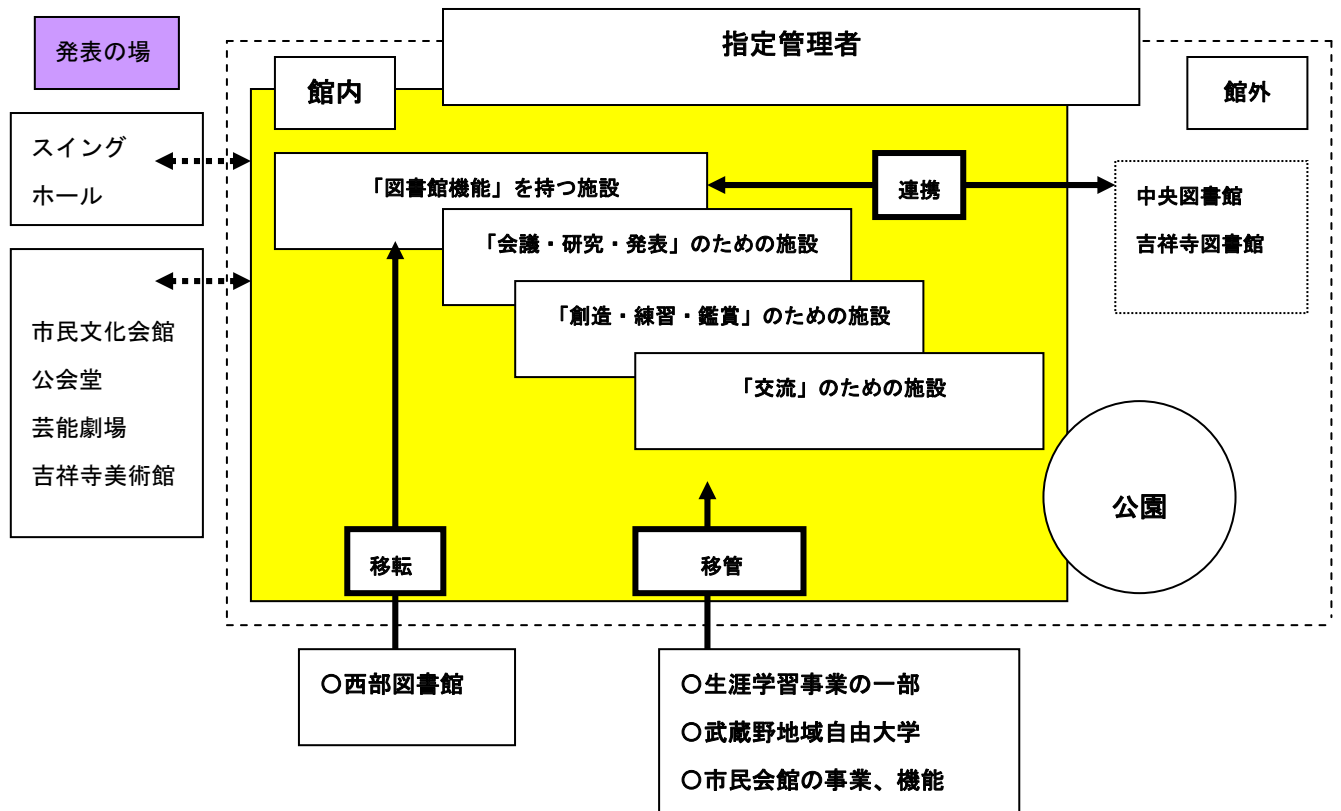
本施設と関連する機能を持つ西部図書館の今後のあり方と市民会館との役割分担については、効果・効率性などの観点から次期の長期計画策定時に十分検討し、整理する必要がある。

○農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会報告書での他の施設との連携
(H16. 5～17. 3)

★他の施設との連携

本施設で行われる学習や研究などの知的創造活動、文化創造活動の中には、その成果を発表する「場」を必要とするものも多い。本施設においても、一定規模の発表ができるスペースは併せ持つが、本格的な発表の「場」は備えてない。そこで、連続立体交差事業の完成後、近接することとなるスイングホールを本格的な発表の「場」として活用するほか、市民文化会館、公会堂、芸能劇場、吉祥寺美術館などの文化関連施設とも連携して活用を図る。

管理運営体系図



★公園との一体的管理

本施設が北側の公園に隣接しているメリットを最大限活かすために、公園についても一体的管理を行っていく。そのことにより、本施設を公園の一部ととらえることができ、双方の利用方法に広がり生まれる。

資料

★スイングホール等、他の公共施設における集会室の状況とその利用状況

（17年度 事務報告より）

○スイング利用状況

開館日数	308日		
施設	利用可能回数	利用回数	利用率(%)
スイングホール	857	652	76.1
スカイルーム1	871	554	63.6
スカイルーム2	871	491	56.4
スカイルーム3	871	543	62.3
レインボーサロンA	746	515	69.0
レインボーサロンB	753	522	69.3

○市民会館利用状況

施設名	操業数	利用数	利用率(%)
講座室	903	669	73.8
第1学習室	903	743	82.0
第2学習室	903	687	75.8
会議室	903	612	67.5
多目的ルーム	903	810	89.4
第1和室	903	614	67.8
第2和室	903	536	59.2
美術工芸室	903	693	76.5
料理室	903	351	38.7
音楽室	903	831	91.7
集会室	903	787	86.9
計	9,966	7,333	73.6

○生涯学習・フォーラム機能について、庁内検討委員会検討意見

○生涯学習機能について検討する上での基本的考え方

1. 武蔵野ブレイス（仮称）は知的創造拠点として、市民の多様な学習意欲に応えられるよう、生涯学習事業を展開する。

現在、生涯学習事業を行っている教育委員会教育部生涯学習スポーツ課（市民会館含む）の既設事業（表1）（表2）について、①教育委員会実施を義務・要請付けられているもの（法令、通達等）、②全市的な立場及び他自治体等との関係から市及び教育委員会で実施したほうが良いものなどを踏まえて、事業移管の有無について検討を行っている。

（表1）既設生涯学習事業

既設の生涯学習事業
社会教育委員に関する事業
土曜学校（19講座、延276回開催、参加者延4,765名）
市民講座（初心者IT講座、モーニングコンサート他）
老壮セミナー（前後期、各50名定員）
老壮シニア講座（9回開催、参加者延894名）
聴力障害者教養講座（年2回、参加者112名）
遠野市家族ふれあい自然体験（平成16年度より、4泊5日、25家族87名参加）
武蔵野地域自由大学（入学者数1,058名、正規履修科目履修者数399名）
武蔵野地域五大学共同事業（学長懇談会、共同講演会、教養講座、寄付講座）
中近東文化センター事業（企画展、寄付講座）
学校開放事業
視聴覚教育事業（16ミリ発声映写機操作講習会含む）
市民芸術文化協会育成事業（市民文化祭事業・芸術文化講座含む）
音楽団体育成事業（小中学生音楽活動支援事業を含む）
文化財保護・普及事業
社会教育関係団体等育成援助事業（団体登録、講師謝礼援助、借上バス等）
未来をひらくはたちのつどい事業
P T A 活動の援助
世界連邦運動協会武蔵野支部

* 表中の実績数値は平成17年度

(表 2) 既設の市民会館事業

既設の市民会館事業
青少年教育（子どもワークショップ、遊びのミニ学校）
成人教育（母と子の教室、市民セミナー、親と子の広場、子育てサポート講座、市民講座、料理講座）
団体育成・交流（市民会館文化祭）
利用促進事業（自習室、利用者懇談会）
貸館利用（貸館としては7割の利用があり）
図書室利用

2. 現在の検討状況は、武蔵野地域自由大学、市民講座(老壮セミナー、老壮シニア講座含む)などについて、移管を前提に事業内容・時期等について精査を行っている。また、上記以外の事業については、引き続き前頁の①及び②を踏まえ検討を行う。

○図書館事業、生涯学習事業の実績

1. 図書館事業（17年度事務報告より）

	中央	西部	吉祥寺
施設名	視聴覚ホール	おはなしのへや	集会室
定員	70名	25名	40名
映画会	12回 752人	3回 35人	6回 155人
こどもまつり	8回 394人	7回 157人	7回 161人
どっきん どうよび	6回 315人	3回 127人	2回 109人
おはなし会	37回 411人(おはなしの部屋)	37回 336人	27回 218人
乳幼児向けお話し会	30回 911人(おはなしの部屋)	19回 468人	10回 200人

2. 生涯学習講座（生涯学習スポーツ課の事業概要（平成17年度版）より）

土曜学校			市民講座			老壮セミナー		
講座数	回数	延人数	講座数	回数	延人数	講座数	回数	延人数
19	276	4,765	4	6	643	2	29	952
老壮シニア講座			聴力障害者教養講座			計		
講座数	回数	延人数	講座数	回数	延人数	講座数	回数	延人数
9	9	894	2	2	112	36	322	7,366

3. 市民会館講座（生涯学習スポーツ課の事業概要（平成17年度版）より）

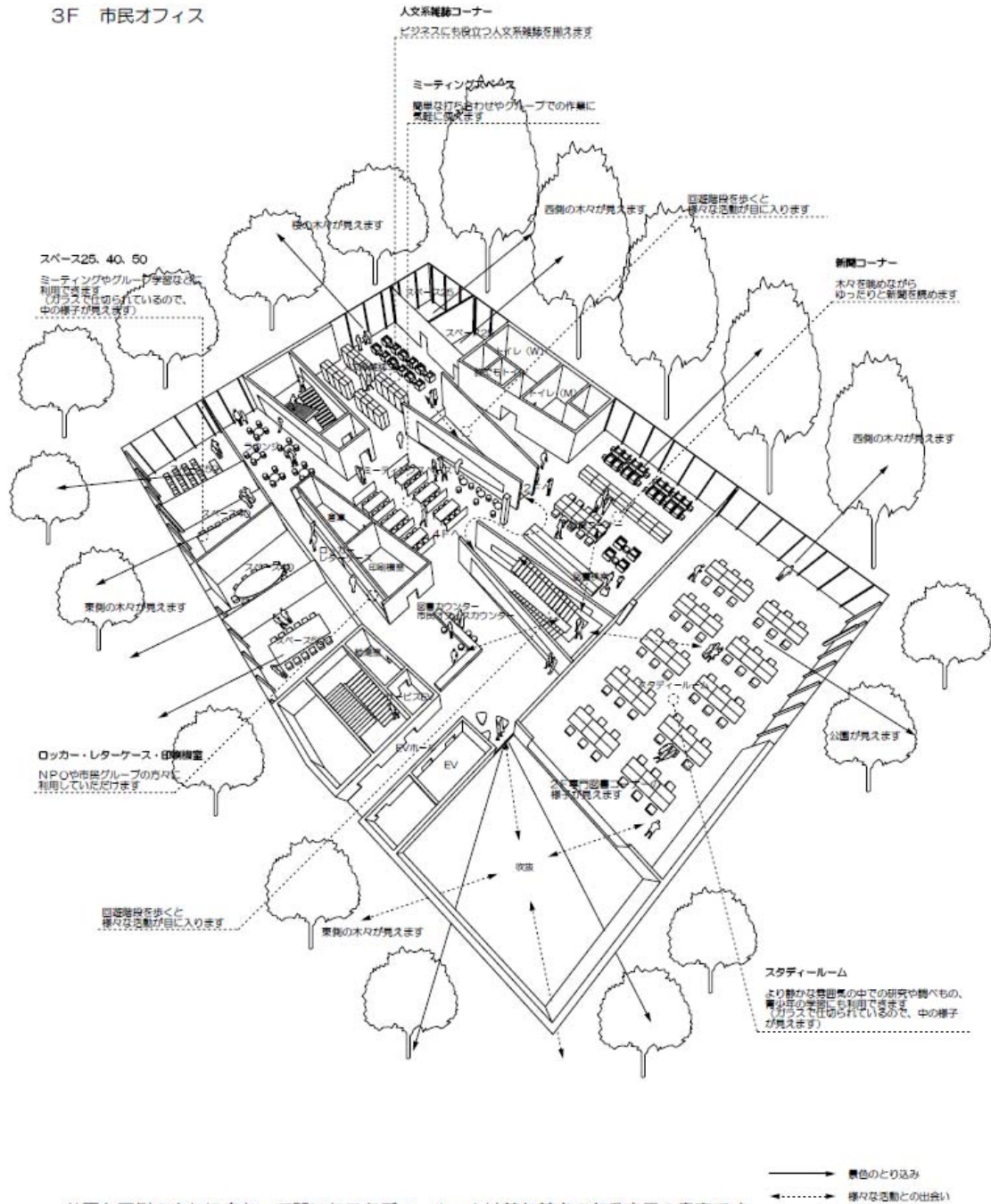
子どもワークショップ		遊びのミニ学校		母と子の教室		市民セミナー		親と子の広場	
講座数	人数	講座数	人数	講座数	人数	講座数	人数	講座数	人数
2	48	2	172	3	128	1	15	4	128
子育てサポート講座		市民講座		料理講座		計			
講座数	人数	講座数	人数	講座数	人数	講座数	人数		
1	14	1	45	1	24	15	574		

4. 武蔵野地域自由大学（平成18年3月31日現在）

入学者(人)	市内	市外	計
男	409	66	475
女	472	111	583
計	881	177	1,058

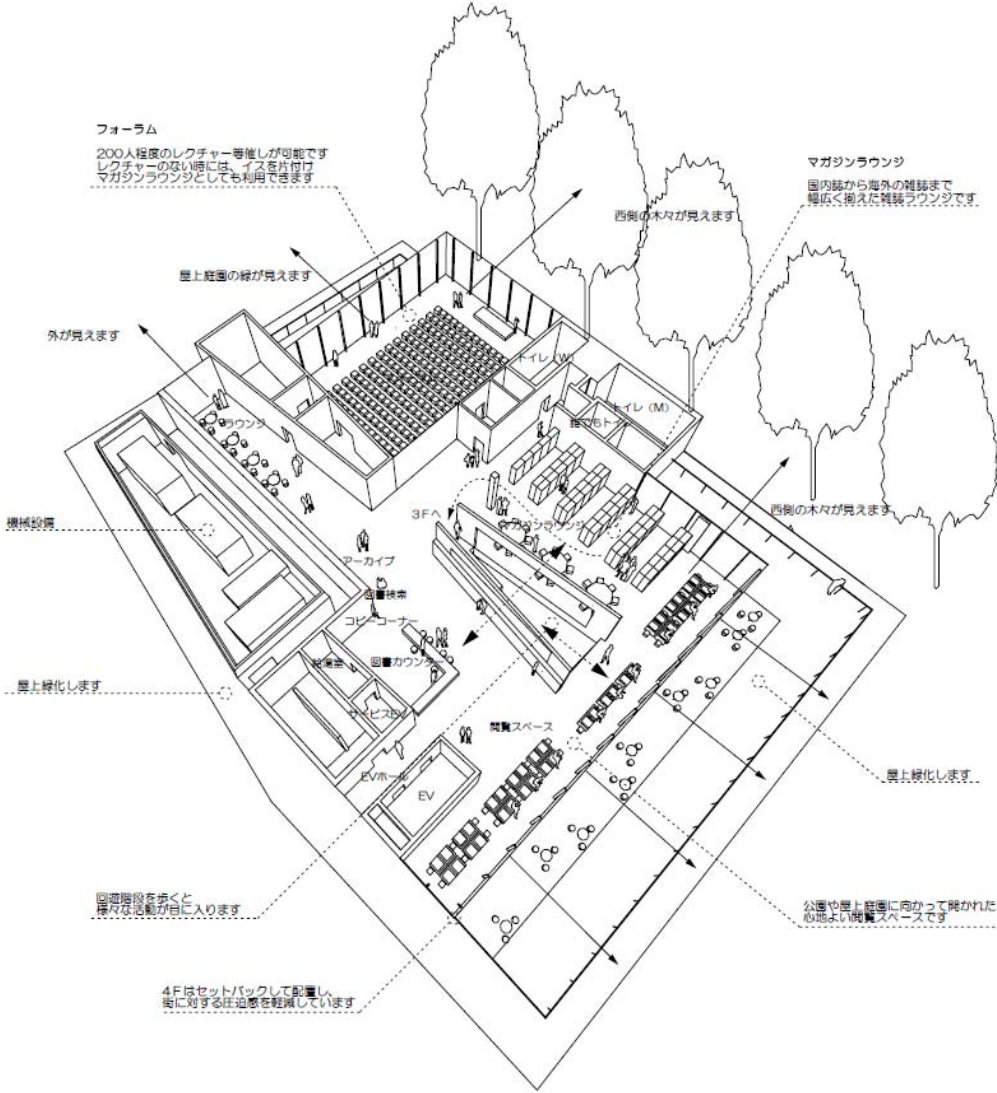
3階は青少年の学習や社会人が落ち着いた研究のできる市民の書斎としてのスタディールーム、簡単な打合せや作業のできるオープンなミーティングスペースと部屋としてのスペースを設置しています。NPOや市民グループ用のロッカー、仕事帰りにビジネス誌や新聞で情報を仕入れたりできるような雑誌・新聞コーナーも設置し、様々な年齢層が自然に集まる場となります。

3F 市民オフィス

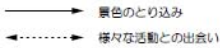


- ・公園と西側の木々に向かって開いたスタディールームは落ち着いた市民の書斎です
- ・ロッカースペースは、ここで活動するNPOや市民グループ等に貸し出され、活動を支援します
- ・社会人やNPO、青少年などすべての人々が利用できるミーティングスペースを中央に配置しています
- ・自動販売機があり、お弁当の食べられるラウンジを設置しています

4F フォーラム



- ・周囲に屋上緑化を施し緑に囲まれた心地よいスペースとしています
- ・緑越しに公園を望む位置にマガジンラウンジを設置しています
- ・西側高木に向かって開かれたフォーラム（約200席）を南西に設置します



市民活動機能について

〇武蔵野市 NPO 活動実態調査等報告書より
(H18 . 3)

I. 調査の概要

1. 調査の目的

◇NPO・市民活動団体等と行政とが、それぞれの特性を生かしながらパートナーシップを発揮し、地域の課題や公的サービスの提供に取り組む体制づくりの推進に向け、今後のNPO等の活動促進と協働のあり方に関する方向性を示す、「武蔵野市NPO活動促進基本計画」を策定するうえでの基礎資料とするために実施しました。

2. 調査期間

平成 18 年 1 月 6 日～20 日

3. 調査対象者等

武蔵野市企画政策室市民活動センターに登録しているNPO・市民活動団体全 67 団体

4. 調査内容

別添調査票ご参照

5. 回収状況

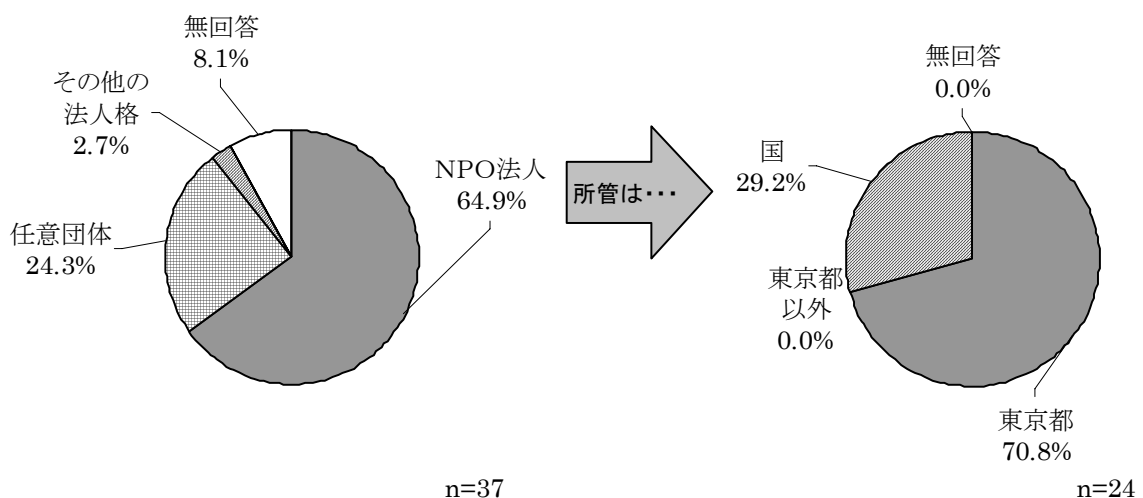
有効回答数 37 件（有効回答率 55.2%）

6. 回答団体の属性

n=有効回答数

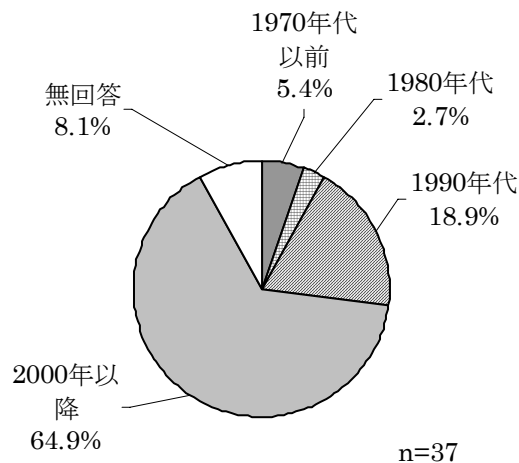
（1）法人の種類 ～NPO法人が6割強～

◇法人の種類は、NPO法人が 64.9%、任意団体が 24.3%で、NPO法人の所管は、東京都が 70.8%、国が 29.2%です。



（２）設立年月 ～2000年以降に設立した団体が6割強～

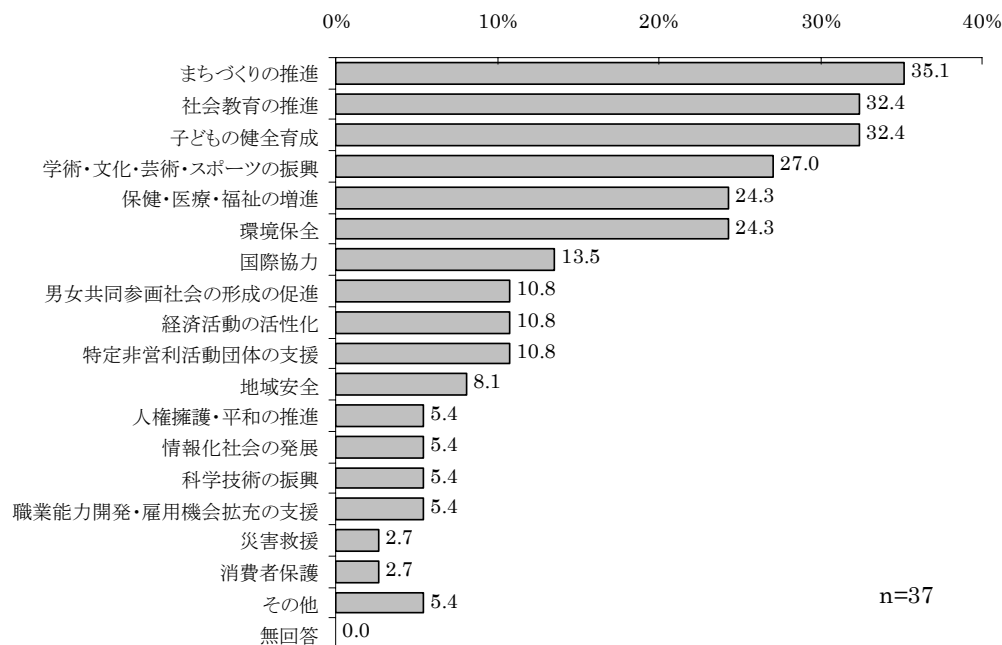
◇設立年月は、2000年以降が最も多く（64.9%）、次いで1990年代（18.9%）となっています。なお、最も古い団体は1975年5月の設立、最も新しい団体は2006年1月の設立です。



（３）活動内容 ～複数分野の活動をする団体が半数以上～

◇活動の内容については、「まちづくりの推進」が最も多く（35.1%）、次いで「社会教育の推進」「子どもの健全育成」（それぞれ32.4%）となっています。

◇活動内容の種類数をみると、1種類の団体が45.9%、2種類の団体が13.5%、3種類の団体が10.8%と、3種類以内の団体が約7割となっています。一方、5種類以上の団体も13.5%となっています。なお、最高は9種類です。

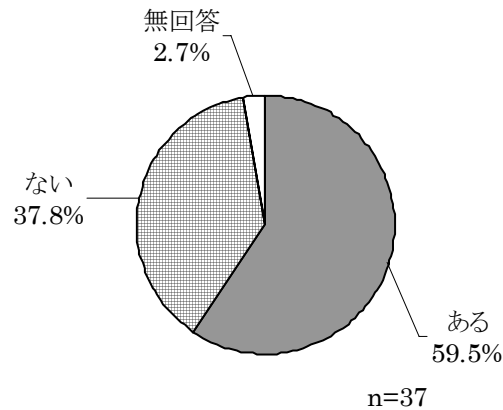


II. 調査結果の概要

1. 活動体制

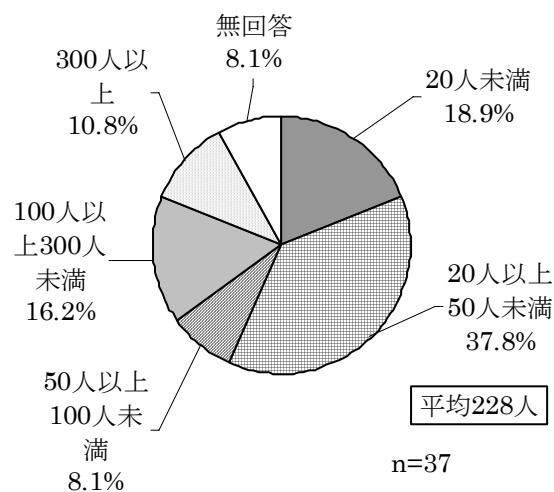
(1) 事務所の有無 ～6割弱の団体が事務所を確保～

◇活動のための事務所がある団体が59.5%、ない団体が37.8%です。



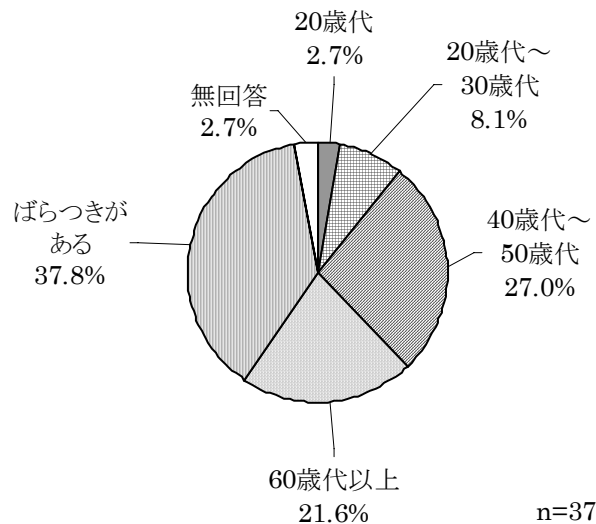
(2) 会員数 ～50人未満の団体が6割弱～

◇会員数は、2000人を超える団体が2団体あることから平均は228人ですが、人数別の割合をみると、「20人以上50人未満」が最も多く（37.8%）、次いで「20人未満」（18.9%）と、50人未満の団体が56.8%となっています



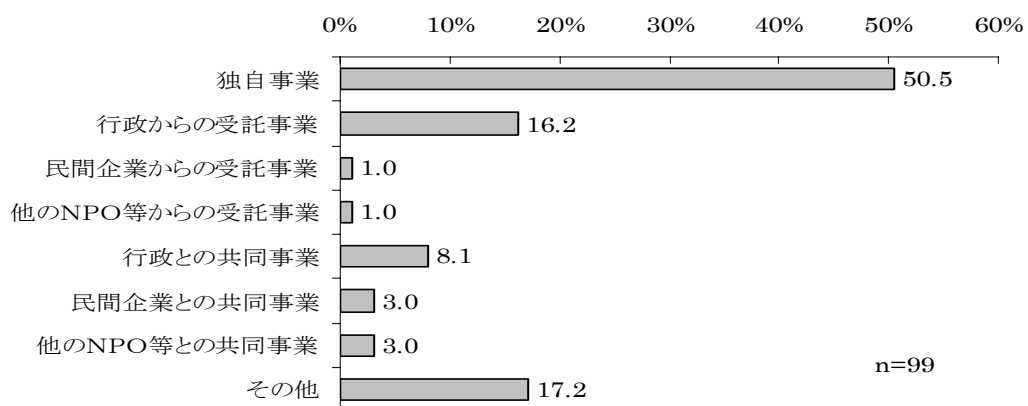
（３）会員の主な年齢層 ～会員の主な年齢層が 40 歳代以上の団体が 5 割弱～

◇会員の主な年齢層は、「ばらつきがある」団体が最も多くなっていますが（37.8%）、次いで「40 歳代～50 歳代」が 27.0%、「60 歳代以上」が 21.6%と、会員の主な年齢層が 40 歳代以上となっている団体が 5 割弱となっています。



（４）昨年度の主な活動 ～約半数の事業が独自事業～

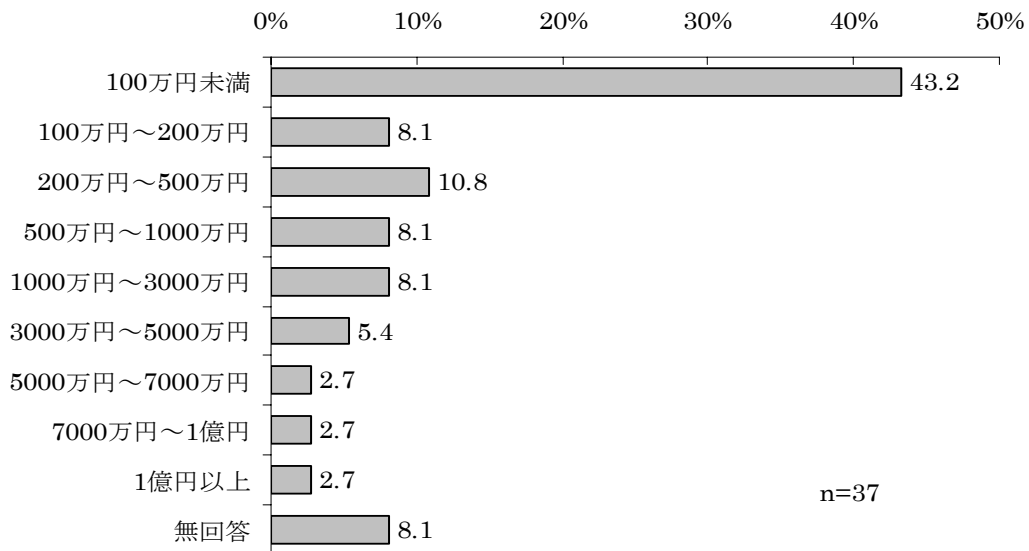
◇昨年度の主な活動を 3 つまで紹介してもらったところ、事業形態としては「独自事業」が最も多く（50.5%）、次いで「行政からの受託事業」（16.2%）となっています。「行政との共同事業」（8.1%）と合わせると、行政との関わりをもった事業は全体の 4 分の 1 弱となっています。



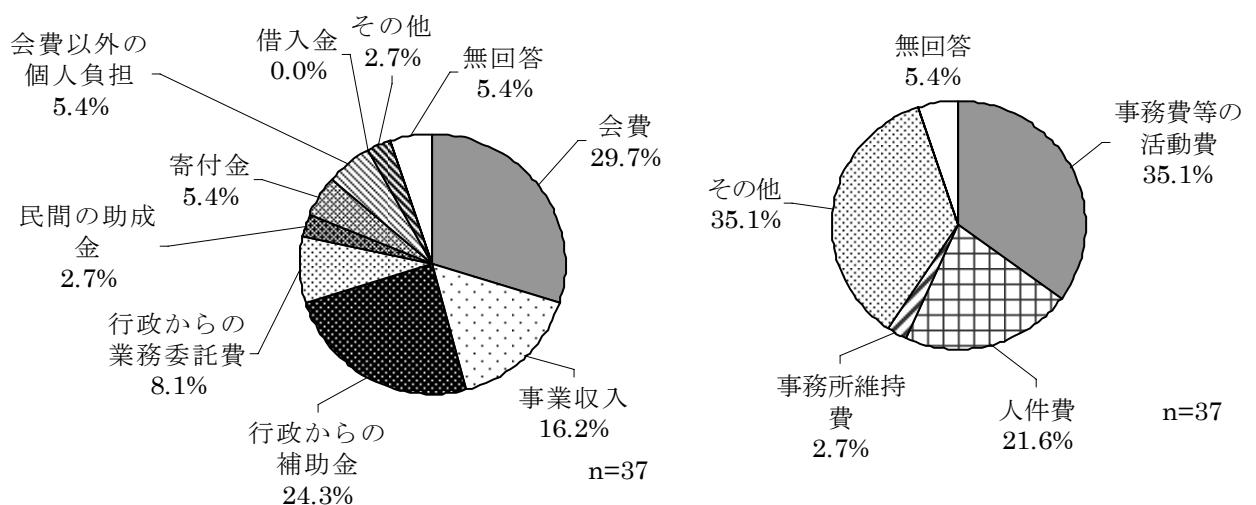
◇なお、これらの事業の定期的性については、「定期的な事業（毎年実施等）」が 75.8%、「昨年度のみ事業」が 9.1%となっています。

（５）昨年度の事業収支 ～約半数の団体が200万円未満～

◇昨年度の実業収支規模をみると、「100万円未満」が最も多く（43.2%）、次いで「200万円～500万円未満」（10.8%）、「100万円～200万円未満」「500万円～1000万円」「1000万円～3000万円未満」（それぞれ8.1%）となっており、200万円未満の団体が半数を超えています。



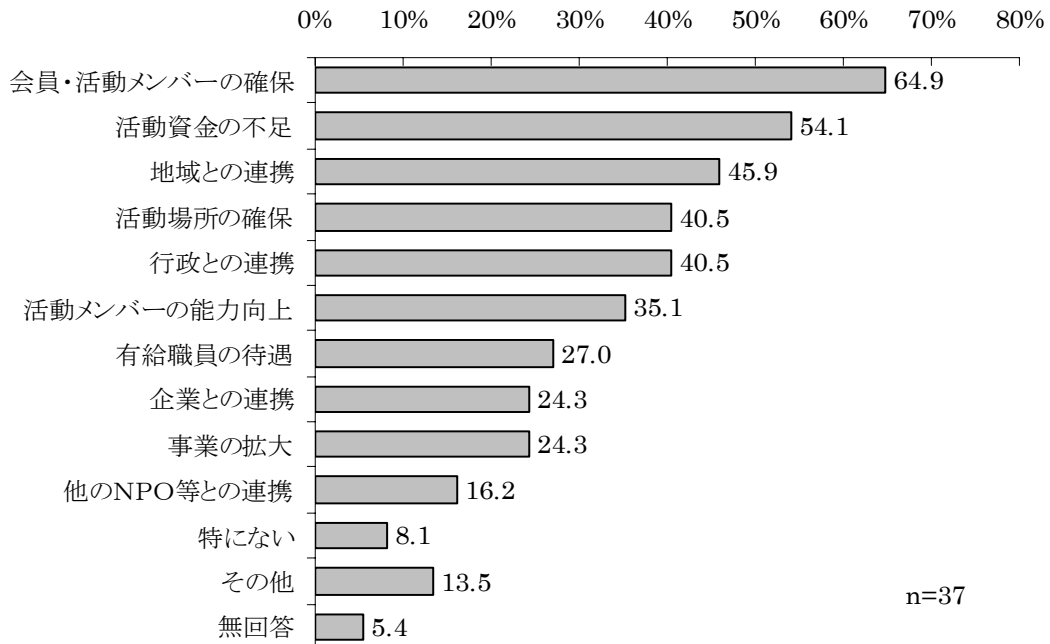
◇昨年の収入において全体に占める割合の最も大きかったものとしては（下左図）、「会費」を挙げる団体が最も多く（29.7%）、次いで「行政からの補助金」（24.3%）、「事業収入」（16.2%）となっています。また昨年の支出において全体に占める割合の最も大きかったものとしては（下右図）、「事業費等の活動費」を挙げる団体が最も多く（35.1%）、次いで「人件費」（21.6%）となっています。



2. 活動上の課題と今後の方向性

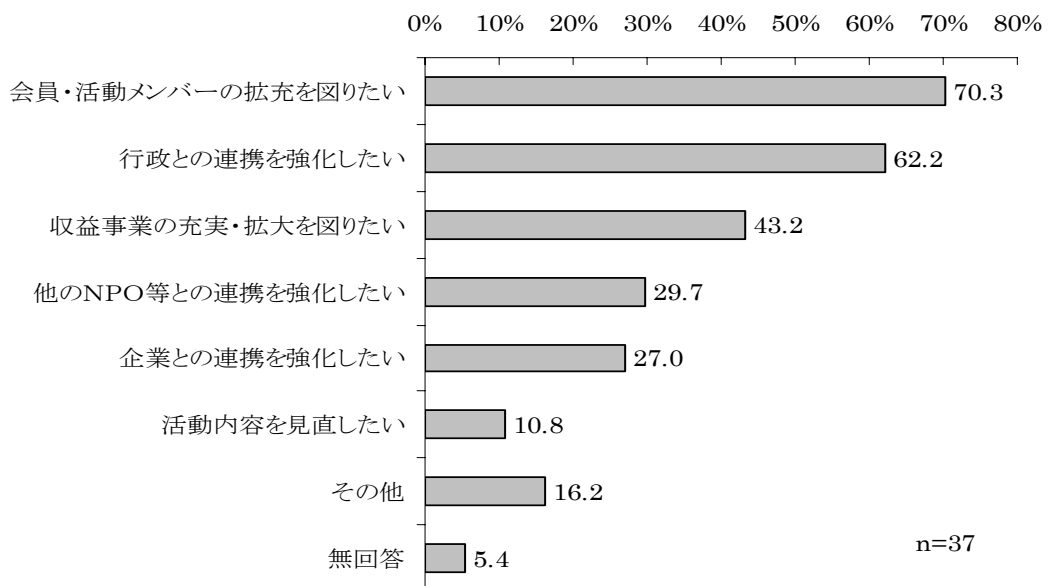
(1) 活動上の課題 ～最大の課題は会員や活動メンバーの確保～

◇活動を行う上での課題としては、「会員・活動メンバーの確保」が最も多く（64.9%）、次いで「活動資金の不足」（54.1%）、「地域との連携」（45.9%）、「活動場所の確保」「行政との連携」（それぞれ40.5%）となっています。



(2) 今後の方向性 ～会員・活動メンバーの拡充を目指す団体が7割超～

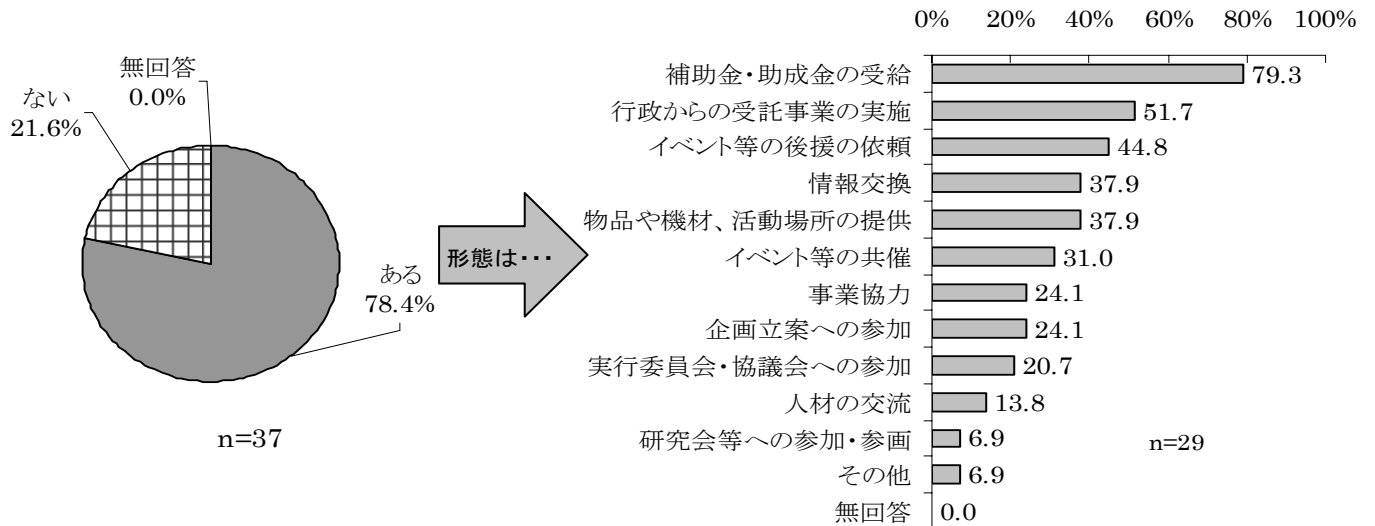
◇今後の方向性としては、「会員・活動メンバーの拡充を図りたい」が最も多く（70.3%）、次いで「行政との連携を図りたい」（62.2%）、「収益事業の充実・拡充を図りたい」（43.2%）となっています。



3. 行政との協働・連携について

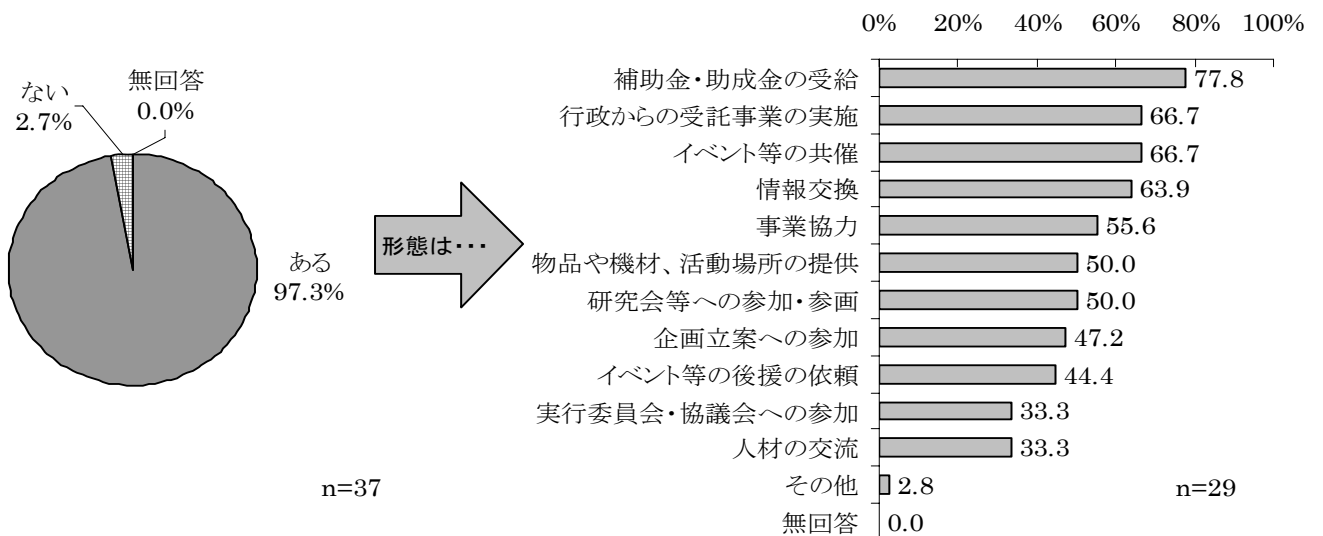
(1) 行政との協働・連携の経験 ～8割弱の団体が協働・連携の経験有り～

◇行政との協働・連携については、78.4%の団体が「ある」とし、その形態としては「補助金・助成金の受給」が最も多く（79.3%）、次いで「行政からの受託事業の実施」（51.7%）、「イベント等の後援の依頼」（44.8%）となっています。



(2) 行政との協働・連携の意向 ～ほぼ全ての団体が行政との協働・連携を望む～

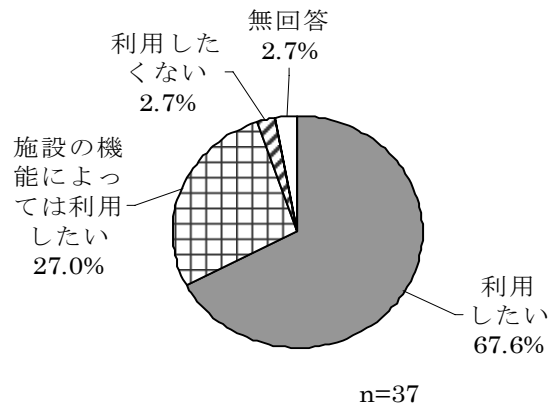
◇行政との協働・連携の意向については、97.3%の団体が「ある」とし、その形態としては「補助金・助成金の受給」が最も多く（77.8%）、次いで「行政からの受託事業の実施」「イベント等の共催」（それぞれ66.7%）となっています。



4. 活動のための拠点整備について

（１）活動拠点となりえる施設の利用意向 ～9割以上の団体が利用を希望～

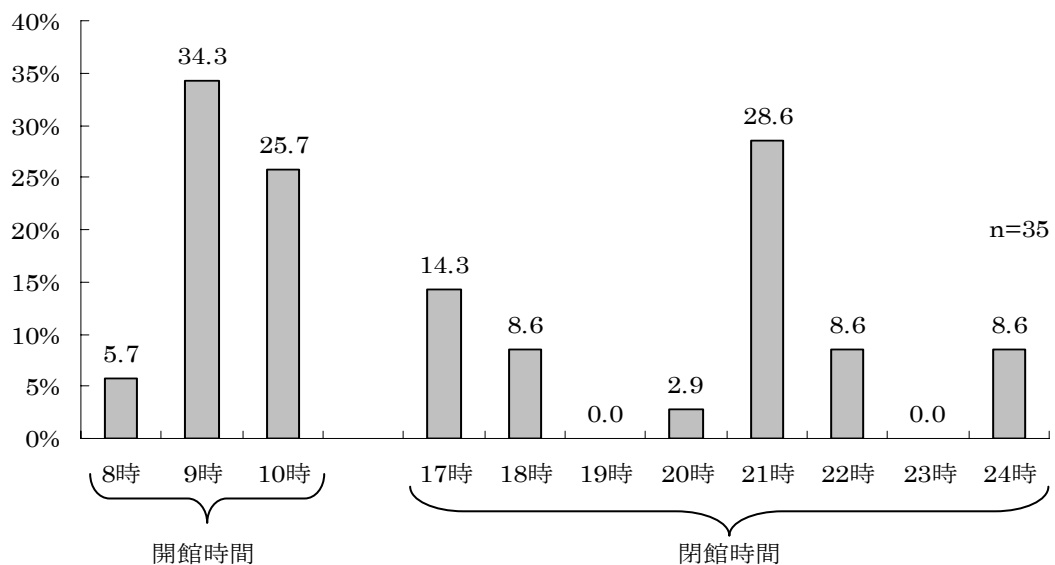
◇活動を行う上で、打合せや団体運営上の事務作業等に自由に使える施設については、「利用したい」が67.6%、「施設の機能によっては利用したい」が27.0%で、9割以上の団体が利用を希望しています。



（２）活動拠点に求める機能

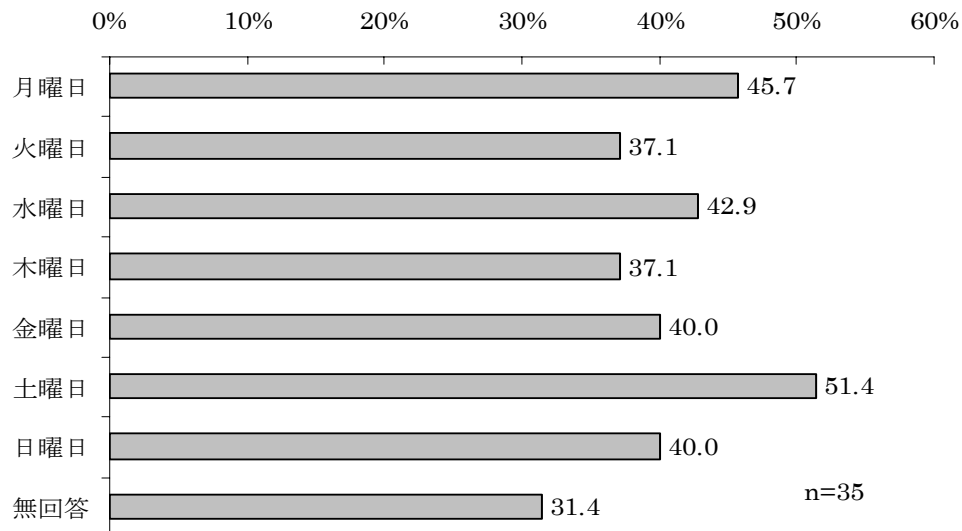
①利用時間 ～21時以降の閉館を希望する団体が5割弱～

◇利用時間を、開館時間・閉館時間それぞれに対する希望時間をみると、開館時間は9時が34.3%、10時が25.7%となっています。一方、閉館時間は、21時が28.6%、17時が14.3%となっています。なお、24時も8.6%となっているなど、21時以降の閉館を希望する団体が45.7%あります。



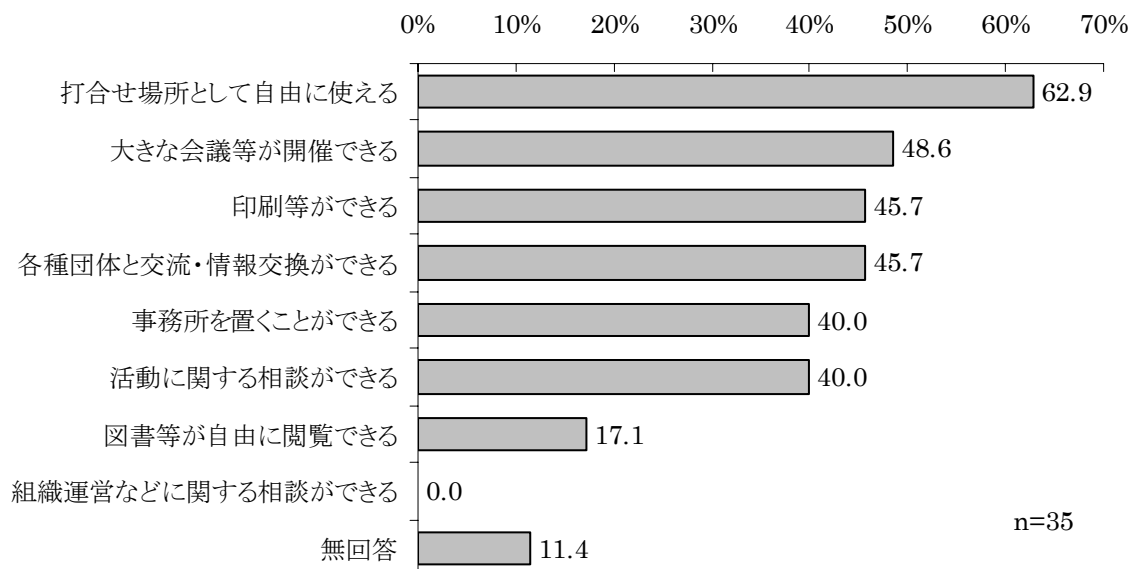
②利用曜日 ～土曜日の利用を希望する団体が5割超～

◇利用を希望する曜日については特に大きな差はみられませんが、土曜日の利用を希望する団体が51.4%と半数を超えています。



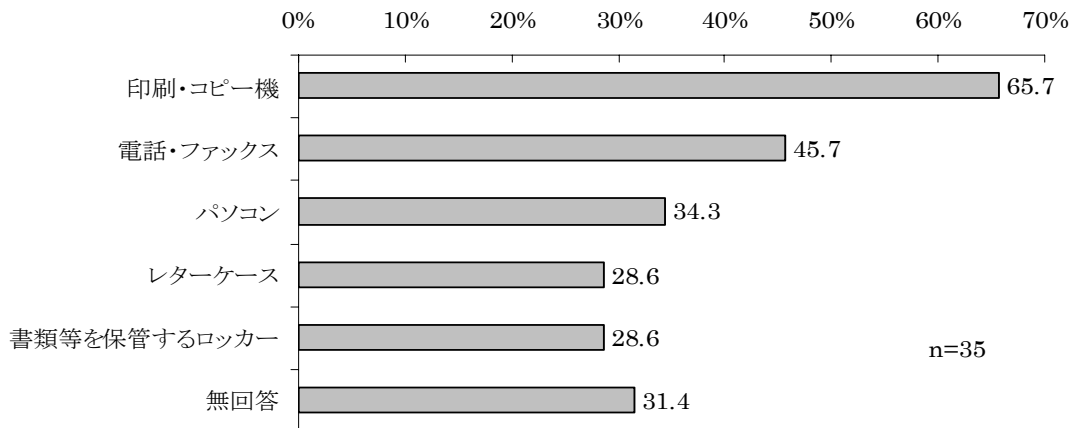
③拠点機能 ～打合せ場所に対するニーズが最も多い～

◇拠点に求める機能としては、「打ち合わせ場所として自由に使える」が最も多く（62.9%）、次いで「大きな会議等が開催できる」（48.6%）、「印刷等ができる」「各種団体と交流・情報交換ができる」（それぞれ45.7%）となっています。さらに「事務所を置くことができる」「活動に関する相談ができる」も40.0%の団体が求めています。



④設備要件 ～印刷機・コピー機に関するニーズが最も多い～

◇拠点に求める設備としては、「印刷・コピー機」が最も多く（65.7%）、次いで「電話・ファックス」（45.7%）、「パソコン」（34.3%）となっています。



5. 自由意見について

(1) 活動を行う上での行政への期待・要望

民間委託すれば安くすむ、という発想はやめ、行政ではできない質の高さや機動力には、それに見合った予算を確保して欲しい。
会場を安価で貸して欲しい。
活動の場所を作って頂きたい。今ある場所を安く提供して欲しい。
交通の便の良い場所にご提供いただける会議室などがあれば助かります。
活動の拠点（事務所）がないため、外部との連絡に不便を感じている。資金のないNPO等も利用できる拠点の提供を希望する。
補助金は活動費には使用できるが、物品の購入は否ということが多いため、もう少し幅を持たせて使い方など考えて欲しい。
補助金を増やして欲しい。一団体あたりの補助金額が少ない。
行政との対等な協働をすすめるためには、事業収入の確保など自立も必要と考えます。その支援のためにも、参加費の徴収や物品の販売などへの制限は極力なくして欲しい。
NPOが活動しやすい為のサポートより、多くの市民がNPOに参加してくれる為のサポートを期待します。
NPO、市民活動の状況を把握する努力をしてほしい。
活動をより多くの市民の皆様にご理解いただくためには、広い広報活動が必要になる。その際、行政の方でも広報活動の場を提供・紹介していただけるととてもありがたい。
行政との協働しての活動を希望する。

(2) 活動を行う上での行政への期待・要望

印刷（チラシ、連絡紙）が安く出来る所が欲しい。
月1回～2回の会議、及び打ち合わせ場所が欲しい。
検討中の「武蔵野プレイス」（武蔵境南口）に、市民活動フロアをぜひとも確保してほしいし、フロアの管理・運営は、今度設立されるネットワークに委託してはどうかと思う。
小さな団体にとって、一番の悩みは資金繰りである。無料の施設があると便利。団体登録制でもよいのでお願いします。
団体の定期集会（運営委員会、理事会、記念式典等）で大きな会場を必要とする場合、市運営の集会場（20～100人程度の収容能力）を無料又は格安料金で利用させて欲しい。
主な活動場所が賃貸物件のため、賃料負担がかなり多く、そのため活動に制限がでてしまう。行政による家賃補助や活動場所の提供といった援助が受けられれば、運営が円滑に進み、活動に広がりが見える。
NPOの活動を始めるためのアドバイスや市役所、東京都などでの手続き等が得られる窓口が欲しい。NPO活動をやっているものも、活動の拡充を行うためのアドバイスが受けられればすばらしい。
なるべく外からの助成金や補助金を使わず自事業として収入や活動を念頭に考え、強い組織をと運営しているが、金銭的な面ではなく団体運営にあたって武蔵野市で援助して頂ければありがたい。
組織運営（会計や人材育成など）についての具体的なアドバイスが得られたり、情報交換の場になるような施設であれば利用してみたいと思う。大きな建物より、入りやすいオープンなスペースと気軽に相談できる明るい窓口カウンターが必要と思う。
市内の複数の場所に施設があると使いやすい。（立派な施設でなくとも、あちこちに小規模な物で良いと思う）
市民活動内容は多様で多岐にわたっているので、拠点は1つと限らず、吉祥寺地区に考えて欲しい。

Ⅲ. 調査結果から得られた示唆

1. 活動上の大きな課題は“人材確保”“活動資金”“活動場所”

◇活動上の課題の上位には、“人材ヒト”に関する事項（会員・活動メンバーの確保）、“活動資金”に関する事項（活動資金の不足）、“モノ”（活動場所の確保）に関する事項が挙げられています。

2. “人材確保”に関する課題

（1）会員・活動メンバーの不足

◇“人材確保”に関する課題の第一は、会員・活動メンバー数の不足であり（64.9%の団体が指摘）、今後の方向性についても7割以上の団体が、その拡充を挙げています。

◇会員・活動メンバーの不足は、活動の発展に大きく影響することから、行政としても、市民に対してNPO法人等の活動に関する情報提供を行うことにより、興味・関心を促すような取組が必要だと思われます。

（2）会員・活動メンバーの年齢構成

◇“人材確保”に関する課題の第二は、会員・活動メンバーの年齢構成で、「ばらつきがある」とする団体が37.8%一方で、5割弱の団体は、40歳代以上が主な年齢層となっています。

◇これは、新たな会員・活動メンバーが入ってこない、ということの影響と考えられますので、（1）と同様、行政としても、市民に対してNPO法人等の活動に関する情報提供を行うことにより、興味・関心を促すような取組が必要だと思われます。

（3）会員・活動メンバーの能力の向上

◇“人材確保”に関する課題の第三としては、会員・活動メンバーの能力の向上が挙げられます（35.1%の団体が指摘）。

◇会員・活動メンバーの能力の向上は、活動の発展に大きく影響することから、行政としては、NPO法人等との連携の強化（今後の方向性として62.2%の団体が指摘）を通じた支援が必要だと思われます。さらに、行政との協働・連携の形態として3分の1のNPO法人等が挙げている「人材の交流」にも取り組む必要があると思われます。

3. “活動資金”に関する課題

（1）活動資金の不足

◇“活動資金”に関する課題の第一は、活動資金の不足であり（54.1%の団体が指摘）、35.1%の団体が、「事務費等の活動費」を支出の中で最も大きい割合を占める項目として挙げており、「人件費」を挙げる団体（21.6%）を上回っています。

◇事務費等の活動費の負担が重くなることは、活動の発展を阻害することにもつながりかねないので、行政としても、例えば印刷費等の負担を軽減できるような取組が必要だと思われます。

（２）収益事業の充実・拡大

◇“活動資金”に関する課題の第二は、収益事業の充実・拡大であり（62.2%の団体が指摘）、行政との協働・連携の今後の意向として、8割弱の団体が、「補助金・助成金の受給」を、7割弱の団体が「行政からの受託事業の実施」を挙げています。

◇行政として収益事業の充実を個別に支援することは困難ですが、行政が直接実施できる支援（委託事業の拡大等）、間接的に実施できる支援（他のNPO法人等や民間企業との連携を推進するための取組）を通じて、収益事業の充実・拡大につなげていくことが必要だと思われます。

4. “活動場所”に関する課題

（１）活動場所の確保

◇“活動場所”に関する課題の第一は、活動場所の確保であり（40.5%の団体が指摘）、活動を行う上で打合せや団体運営上の事務作業等に自由に使える施設については、条件つきながらも9割以上の団体が、「利用したい／施設の機能によっては利用したい」としています。

◇6割弱の団体が活動のための事務所をもっている一方で、上記の施設の利用意向が高いことは、現在の事務所に関して「使い勝手が悪い」「事務所維持費の負担が重い」「設備等が十分でない」等の要因があるからだと考えられます。行政としては、団体の活動を行う上で自由に使える施設を、団体からの要望の多い事項（利用時間、利用曜日、施設の機能、設備要件）を考慮しながら整備することが必要だと思われます。

（２）活動場所の機能

◇“活動場所”に関する課題の第二は、活動場所の機能であり、27.0%の団体は、利用時間や利用曜日、機能、設備によっては利用したいとしています。

◇活動場所の機能に対しては、「打合せ場所として自由に使える」（62.9%）、「大きな会議等が開催できる」（48.6%）、「印刷等ができる」（45.7%）といったハード面に関するニーズが高くなっていますが、同時に「各種団体と交流・情報交換ができる」（45.7%）、「活動に関する相談ができる」（40.0%）といったソフト面に対するニーズもあることから、行政としてこのような施設を整備するに当たっては、ソフト面の充実にも配慮することが必要だと思われます。

○武蔵野プレイス（仮称）市民活動機能

○市民活動機能のハード面

3階市民オフィスフロア機能			利用方法、スペック
3階 市民 オフィス	市民オフィス （市民活動優 先エリア）	ミーティングスペース	*6人テーブル×6、予約なしに自由に使える
		資料コーナー、情報ボード	*資料コーナーは団体情報ファイルが収納され、団体紹介、活動のPRができる。また、情報ボードはチラシ・ポスター・パンフレットが掲示できる。
		ロッカー、レターケース	*ロッカー、レターケースは100団体分確保する。ロッカー、レターケースとミーティングスペースを活用すれば、団体の事務所機能として利用できる。
		プリント工房（印刷室）	*プリント工房では、印刷機、裁断機、紙折機、パソコン（CD・DVD編集）が装備されており、チラシ・パンフレット・冊子などを作成することができる。
		スペース25（10人用）	*市民活動打合せ、グループ学習
		スペース25（10人用）	*市民活動打合せ、グループ学習
	市民オフィス （予約貸出）	スペース40（20人用）	*講座・予約貸出
		スペース50（30人用）	*講座・予約貸出
		スペース40（20人用）	*講座・予約貸出、スペース40+50（50人用） （可動間仕切りにより2室を1室利用）
		スペース50（30人用）	
	人文系雑誌・新聞 コーナー	人文系雑誌（300誌）	*図書館エリア
		新聞（50紙）	*図書館エリア
	スタディコーナー		*個人の学習・研究・調査活動、青少年の学習の場
	4階 フォー ラム	フォーラム（200人用、机使用時100席）	*フォーラム、講座、大会議

○市民活動機能のソフト面

⇒3階市民オフィスの中間支援NPOによる管理運営の検討

○青少年活動機能のデータ

①児童館、その他青少年施設の配置と施設設備・職員配置の実態。中高生タイム等 10 代向け事業の実施状況等。（事業は、個別に把握するのは困難だと思いますので、だいたいの傾向性程度でかまいません）

○児童館管理運営

遊びを通して、子ども達の健全育成を図ることを目的とした施設。乳幼児親子、小学生、中学生、子育てに関心のある大人を対象に、遊び及び交流の場を提供し、友達づくりを応援している。（職員数/保育士 2 名（館長含む）、幼稚園教諭 1 名、事務 2 名）（単位：人）

2005 市勢統計

年度	総数	利用者内訳				目的別利用内訳		地域別利用内訳		一日平均利用者数
		乳幼児	小学生	中学生	大人	一般利用	行事参加	市内	市外	
17	30,691	8,422	12,612	460	9,197	19,914	10,777	22,910	7,781	103

○中学生・高校生リーダー養成講座

中学生・高校生が登録し、野外活動・保育体験を中心に、地域や市が主催するイベント等でのボランティアを行う。事前に、救急法やリーダー論等の簡単な講習会を行う。主な活動として、「むさしのジャンボリー」におけるサブリーダーがあり、指導者（大人）と参加者（小学生）との間で、指導者のサポートを行う。また、修了後も継続してボランティア活動を希望する者は、中高生リーダーとして登録する。

市内に 1 館のみ、中学生の利用が少ない

平成 17 年度 登録者数 169 名（うちリーダー登録者数 33 名）延参加者数 271 名

○むさしのジャンボリー事業

青少年問題協議会地区委員会が市と共催で実施する自然体験事業。夏休み期間中に、小学校 4～6 年生を対象に、地域（小学校学区）ごとに 2 泊 3 日で実施し、学年を超えて、また地域の年長者達との共同生活を行う。小学校卒業後は、100 名程度がボランティア（サブリーダー）として参加している。

年度	参加者総数	参加児童数(小学生)	参加指導者数	サブリーダー(中高生)
17	1,411	1,011	400	(105)

○野外活動サポートスタッフ

平成 17 年度事務報告

18 歳以上の方が登録し、むさしのジャンボリー、セカンドスクール等の子ども達の野外活動、体験学習において、指導者及び児童のサポートを行う。野外活動、教育などに興味のある学生を中心に 40～50 名程度が登録している。

○市民会館/今日の自習室（在学青少年の健全な個人学習を推進）

日時/①7/20～8/31（延 541 人）②1/4～1/31（延 354 人）/第 1 学習室（28 席）

○公共施設の青少年利用

1. ストリートスポーツ広場

（武蔵野市総合体育館）

スケートボード・インラインスケート・BMX
ができる、無料開放施設です。

【愛好者が武蔵野市長へ手紙を書いたことが
きっかけで2002年4月6日に完成された
パーク】

【利用時間】平日 13:00~20:00

土・日曜日、祝日 10:00~20:00



利用状況	(人)
17年度(年間)	10,336人
平日利用	20~30人
土日祭日利用	50~80人

2005 市勢統計

2. 武蔵野市総合体育館

室	利用方法
軽体操・ダンス室	大学生を中心にするダンスサークルが週2回程(15:30~18:30)、軽体操・ダンス室を取り、活動をしている。(30人程度の参加)
バスケット	毎週火・金は、体育館を1日バスケットに限定して、個人利用としている。夕方になると30人程度集まり、試合を行っている。

3. 図書館

図書館	所在地	最寄駅	
中央図書館	吉祥寺北町4-8-3	三鷹駅	学習室・ヤングアダルトコーナー
吉祥寺図書館	吉祥寺本町1-21-13	吉祥寺駅	ヤングアダルトコーナー
西部図書館	境5-15-5	武蔵境駅	読書室

4. コミュニティセンター

市内、20あるコミュニティセンターには、ロビー・ピアノ・
学習室・体育施設があり、青少年が利用している。

武蔵野市コミュニティセンターガイド

駅	コミセン	ロビー	ピアノ	学習室	体育施設	駅	コミセン	ロビー	ピアノ	学習室	体育施設
吉祥寺	吉祥寺東	○	○			三鷹	けやき	○	○	○	
	本宿	○	○	○	○		中央	○	○	○	○
	吉祥寺南町	○	○	○	○		西久保	○	○	○	○
	御殿山	○		○	○		緑町	○		○	○
	本町	○	○	○	○		八幡町			○	
	吉祥寺西	○	○	○	○		北ホール	○	○		
	吉祥寺北	○	○	○	○		関前	○	○	○	○
武蔵境						西部	○	○	○	○	
						境南	○	○	○	○	
						桜堤				○	

②市内の中学・高校・大学・専門学校等の配置

2005 市勢統計

学校名	所在地	最寄駅	生徒数			
			計	1年	2年	3年
総数(市立)			1,839	579	649	611
第一中	中町 3-9-5	三鷹駅	302	85	116	101
第二中	桜堤 1-7-31	武蔵境駅	274	88	103	83
第三中	吉祥寺東町 1-23-8	吉祥寺駅	315	94	115	106
第四中	吉祥寺北町 5-11-41	三鷹駅	440	145	156	139
第五中	関前 2-10-20	三鷹駅	255	72	83	100
第六中	境 3-20-10	武蔵境駅	253	95	76	82
総数(私立)			2,439	804	840	795
聖徳学園中	境南町 2-11-8	武蔵境駅	446	155	152	139
成蹊中	吉祥寺北町 3-10-13	吉祥寺駅	765	252	252	261
藤村女子中	吉祥寺本町 2-16-3	吉祥寺駅	134	45	39	50
法政大学第一中	吉祥寺東町 3-5-7	吉祥寺駅	321	105	110	106
吉祥女子中	吉祥寺東町 4-12-20	西荻窪駅	773	247	287	239

学校名	所在地	最寄駅	生徒数				
			計	1年	2年	3年	4年
総数(都立)			5,287	1,734	1,747	1,768	38
都武蔵高(昼間)	境 4-13-28	武蔵境駅	968	324	327	317	
都武蔵高(夜間)	境 4-13-28	武蔵境駅	171	50	44	39	38
武蔵野北高	八幡町 2-3-10	三鷹駅	722	237	239	246	
総数(私立)			3,426	1,123	1,137	1,166	
聖徳学園高	境南町 2-11-8	武蔵境駅	438	163	136	139	
成蹊高	吉祥寺北町 3-10-13	吉祥寺駅	999	337	329	333	
藤村女子高	吉祥寺本町 2-16-3	吉祥寺駅	432	118	141	173	
法政大学第一高	吉祥寺東町 3-5-7	吉祥寺駅	807	243	276	288	
吉祥女子高	吉祥寺東町 4-12-20	西荻窪駅	750	262	255	233	

学校名	所在地	最寄駅	生徒数							
			計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
総数(市内)			15,494							
成蹊大学	吉祥寺北町 3-3-1	吉祥寺駅	7,798	2,018	1,853	1,757	2,170			
亜細亜大学	境 4-13-28	武蔵境駅	5,606	1,277	1,422	1,214	1,693			
亜細亜大学短期大学	境 4-13-28	武蔵境駅	568	280	288					
日本赤十字武蔵野短期大学	境南町 1-26-33	武蔵境駅	222	49	81	92				
日本畜産生命科学大	境南町 1-7-1	武蔵境駅	1,300	344	251	241	266	105	93	
総数(市外)			10,355							
武蔵野大学	(西東京市) 新町 1-1-20	三鷹駅	5,260							
国際基督大学	(三鷹市) 大沢 3-10-2	武蔵境駅	1,155	197	200	259	338	56 (その他)		
東京女子大	(杉並区) 善福寺 2-6-1	吉祥寺駅	3,940							

学校名	所在地	最寄駅	生徒数
総数			5,766
二葉栄養専門学校	吉祥寺本町 2-11-2	吉祥寺駅	2,272
二葉ファッションアカデミー	吉祥寺南町 1-10-1	吉祥寺駅	1,995
専門学校中野スクールオブビジネス	吉祥寺南町 2-4-1	吉祥寺駅	97
武蔵野東技能高等専修学校	西久保 3-25-3	三鷹駅	1,003
武蔵野外語専門学校	中町 1-27-2	三鷹駅	239
日本医学技術専門学校	境南町 1-7-1	武蔵境駅	160
総数			277
二葉製菓学校	吉祥寺本町 2-23-8	吉祥寺駅	113
武蔵野美術学園	吉祥寺東町 3-3-7	吉祥寺駅	164

③人の流れについて

市民、市民以外（とくに10代の若者）

（こちらも数量的に捉えることは難しいと思いますので、経験的・感覚的なものでかまいません）

2005 市勢統計

年齢	18			
	男	女	総数	構成比(%)
総数	64,865	69,125	133,990	100.0
0～4 歳	2,357	2,294	4,651	3.5
5～9 歳	2,597	2,285	4,882	3.6
10～14 歳	2,487	2,250	4,737	3.5
15～19 歳	2,712	2,665	5,377	4.0
20～24 歳	4,838	4,940	9,778	7.3
25～29 歳	6,497	6,313	12,810	9.6
30～34 歳	6,565	6,238	12,803	9.6
35～39 歳	5,784	5,613	11,397	8.5
40～44 歳	4,943	4,979	9,922	7.4
45～49 歳	4,183	4,138	8,321	6.2
50～54 歳	3,756	3,914	7,670	5.7
55～59 歳	4,726	4,910	9,636	7.2
60～64 歳	3,383	3,847	7,230	5.4
65～69 歳	2,897	3,549	6,446	4.8
70～74 歳	2,818	3,565	6,383	4.8
75～79 歳	2,044	3,049	5,093	3.8
80～84 歳	1,338	2,315	3,653	2.7
85～89 歳	632	1,387	2,019	1.5
90～94 歳	254	650	904	0.7
95 歳以上	54	224	278	0.2

単身居住が
増える

駅名	年間		1日平均		駅圏	小売業(百万円)
	乗客 (千人)	降客 (千人)	乗客 (人)	降客 (人)		
JR 吉祥寺駅	50,605	50,605	138,644	138,644	吉祥寺駅圏	209,827
京王 吉祥寺駅	26,020	25,610	71,823	70,699	三鷹駅北口圏	13,540
JR 三鷹駅	30,966	30,966	84,838	84,838	三鷹駅南口圏	23,266
JR 武蔵境駅	21,679	21,679	59,394	59,394	武蔵境北口圏	12,187
JR 西武武蔵境駅	4,567	4,896	12,512	13,415	武蔵境南口圏	33,463

駅名	デパート	駅前ショッピングセンター	大型スーパー	映画館	カラオケボックス	ゲームセンター	ファーストフード
吉祥寺駅	3	1	1	2	8	3	10
三鷹駅(北口)	0	0	0	0	1	0	0
三鷹駅(南口)	0	2	0	0	2	0	4
武蔵境駅	0	0	1	0	2	1	4

駅圏	41452	中学	4278	高校	6285	大学・専門学校	30889
吉祥寺駅圏		3中	315	成蹊高	999	成蹊大	7798
		成蹊中	765	藤村女子高	432	二葉栄養	2272
		藤村女子中	134	法政一高	802	二葉ファッション	1995
		法政一中	321	吉祥女子高	750	中野ビジネス	97
		吉祥女子中	773			二葉製菓	113
						武蔵野美術 (東京女子大)	164 3940
吉祥寺合計	21670	吉祥寺中学計	2308	吉祥寺高校計	2983	吉祥寺大学等計	16379
三鷹駅圏		1中	302	武蔵野北高	722	武蔵野外語	239
		4中	440	武蔵野東技能高 等専修学	1003		
		5中	255			(武蔵野大)	5260
三鷹合計	8221	三鷹中学計	997	三鷹高校等計	1725	三鷹大学等計	5499
武蔵境駅圏		2中	274	武蔵高(昼)	968	亜細亜大	5606
		6中	253	武蔵高(夜)	171	亜細亜短大	568
		聖徳中	446	聖徳高	438	日本畜産大	1300
						日赤短大	222
						日本医学 (国際基督大)	160 1155
武蔵境合計	11561	武蔵境中学計	973	武蔵境高校計	1577	武蔵境大学等計	9011

○吉祥寺駅圏/吉祥寺駅圏は、多摩地域で、立川駅圏に次ぐ商業圏であり、成蹊大学を中心に昔から若者のまち（多摩地区を中心に他圏からも集まる）と呼ばれている。井の頭公園（三鷹市）があり、若者のデートスポットでもある。カラオケボックス、ファーストフード店などが多数連立している。

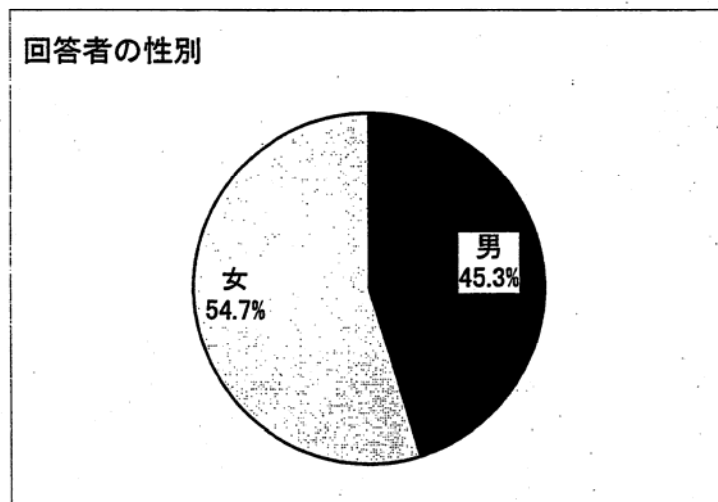
○三鷹駅圏/北口（武蔵野市）は業務圏で、若者の集まる商業施設は少ない。むしろ、南口（三鷹市）に商店街が連なっている。三鷹駅北口圏の青少年は、吉祥寺に流れると推測する。

○武蔵境駅圏/武蔵境駅周辺は亜細亜大学を中心に学生のまちと呼ばれている。北口駅前（すきっぷ通り）は、ファーストフード店が連立している。南口は大型スーパー（イトーヨーカドー）があり、売り上げも全国でも指折りである。イトーヨーカドーの西館地下に青少年がおしゃべりしながら、飲食ができるフードショップ店街がある。

1. 中学生・高校生の生活実態と意識に関する調査(抜粋)

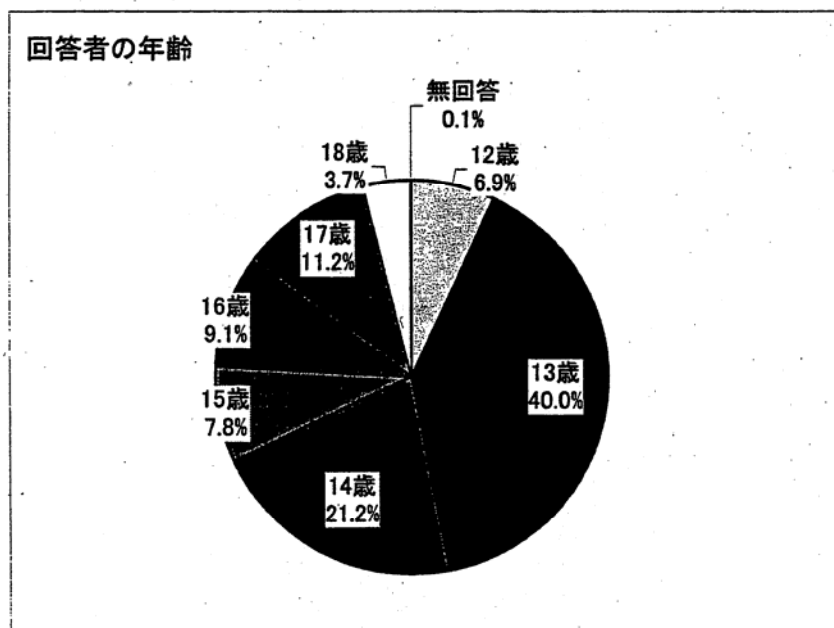
(1) 回答者の性別

回答者の男女構成比は、男子が45.3%、女子が54.7%で、女子の回答割合がやや高い結果となっている。



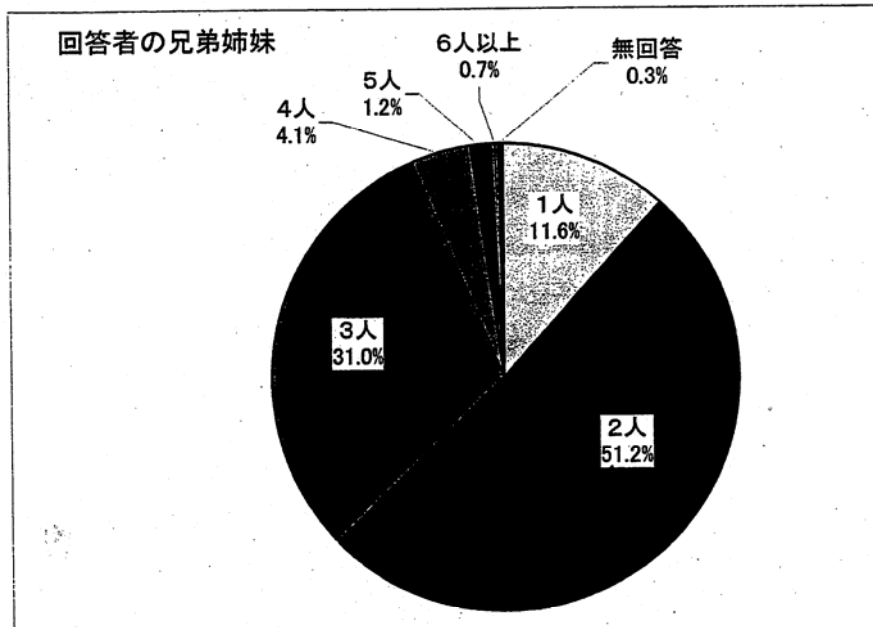
(2) 回答者の年齢

回答者の年齢の分布状況は、13歳(40.0%)、14歳(21.2%)の回答割合が高い。



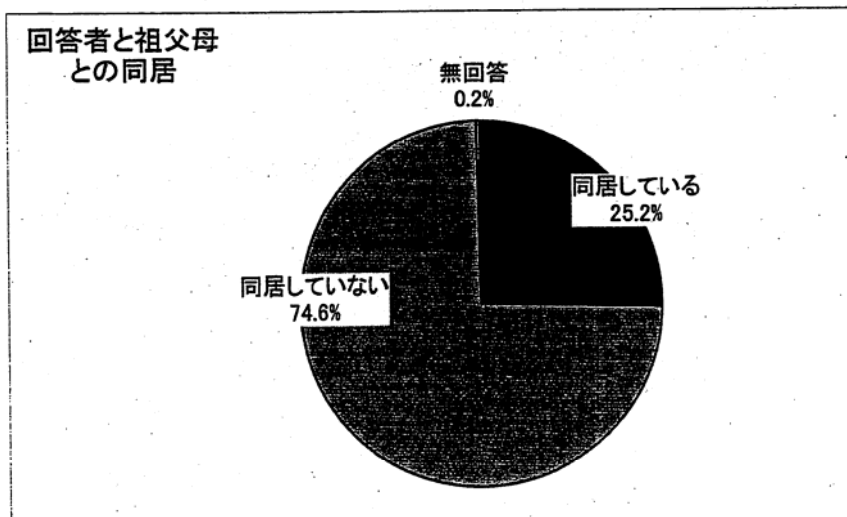
(3) 回答者の兄弟姉妹

兄弟姉妹の人数は、2～3人が中心で「2人」が全体の 51.2%で最も高い割合を占めており、次いで「3人」が 31.0%となっている。また、ひとりっ子の割合は、11.6%であった。



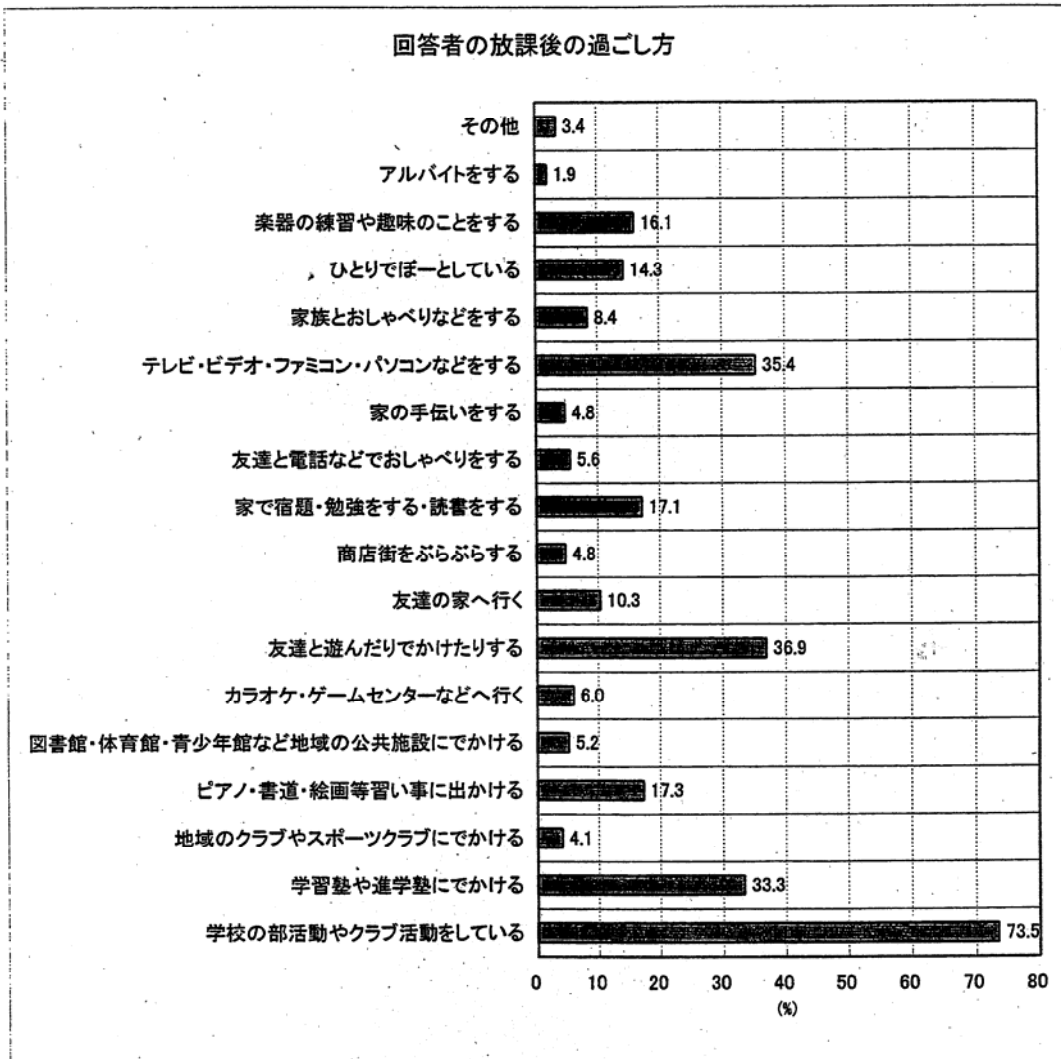
(4) 回答者と祖父母との同居

回答者全体の 74.6%は祖父母と同居しておらず、祖父母と同居している者の割合は 25.2%で全体のおよそ四分の一である。



(5)回答者の平日の放課後の過ごし方

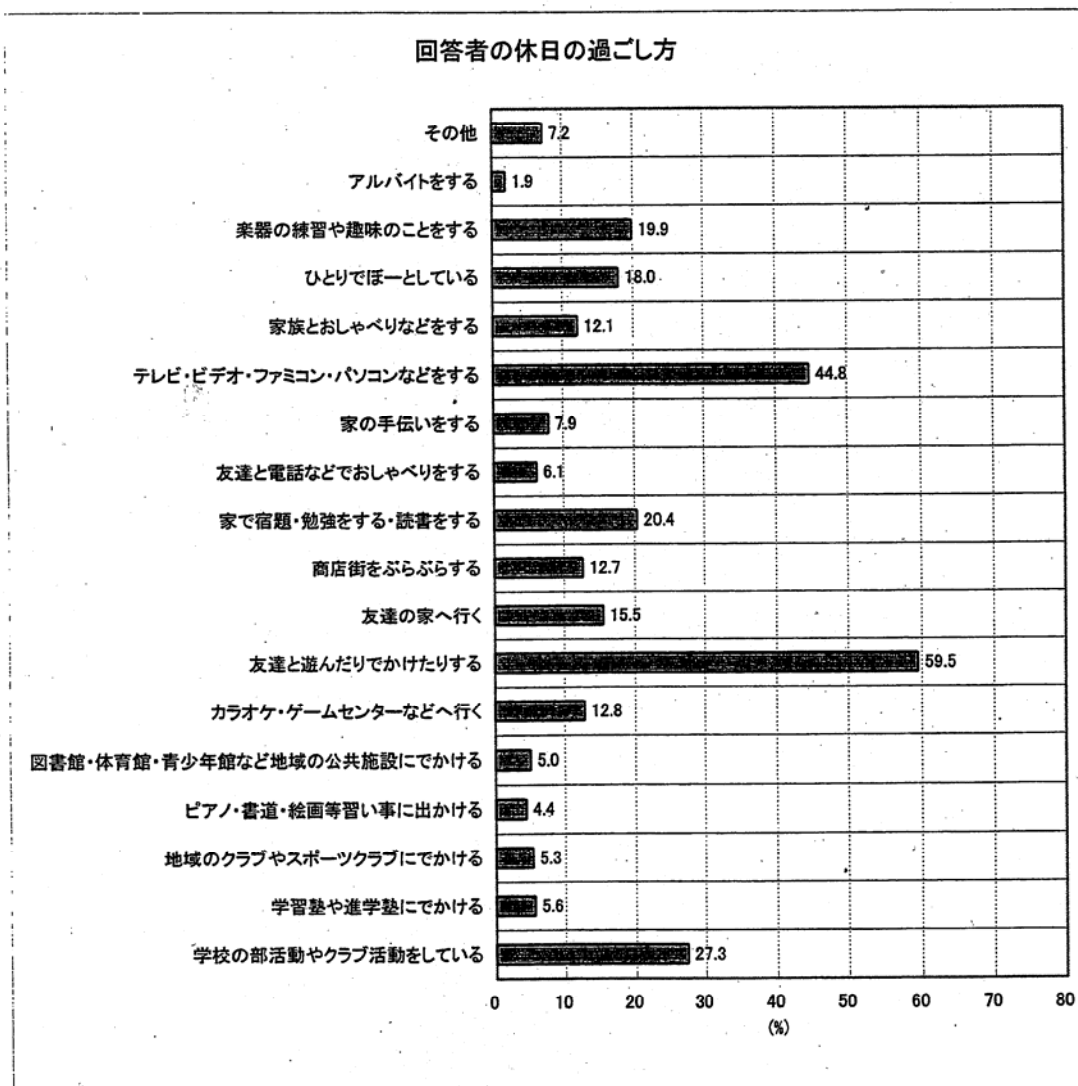
平日の放課後の過ごし方について「学校の部活やクラブ活動をしている」が全体の73.5%と最も高い割合を占めており、特に中学生は男女とも80%を超える割合であった。



(6) 回答者の休日の過ごし方

全体では「友達と遊んだりでかけたりする」が 59.5%で最も高い割合を占めており、次いで「テレビ・ビデオ・ファミコン・パソコンなどをする」(44.8%)、「学校の部活動やクラブ活動をしている」(27.3%)などが高い割合となっている。

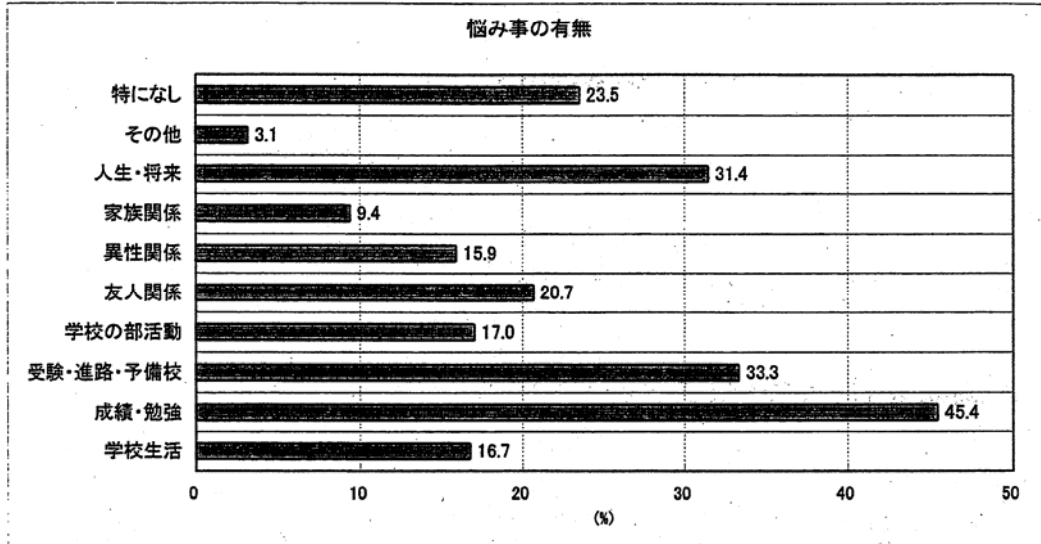
男女別では、男子の場合「テレビ・ビデオ・ファミコン・パソコンなどをする」の割合が高く、一方、女子の場合「友達と遊んだりでかけたりする」の割合が高い傾向にある。



(7) 悩み事の有無

今、何か悩んでいることがあると回答したのは全体の 76.5%、中学の男子 71.0%、中学の女子 77.0%、高校の男子 71.6%、高校の女子 86.8%である。

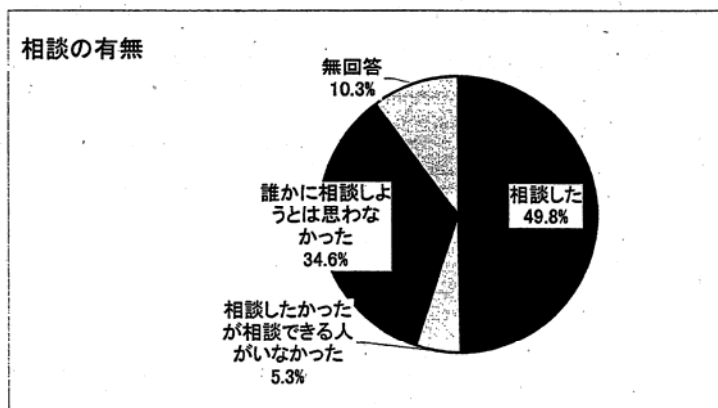
悩み事の内容は全体で、「成績・勉強」が 45.4%で最も高い割合を占め、次いで「受験・進路・」(33.3%)、「人生・将来」(31.4%)、「友人関係」(20.7%)などがと高い割合を占めている。



(8) 相談の有無

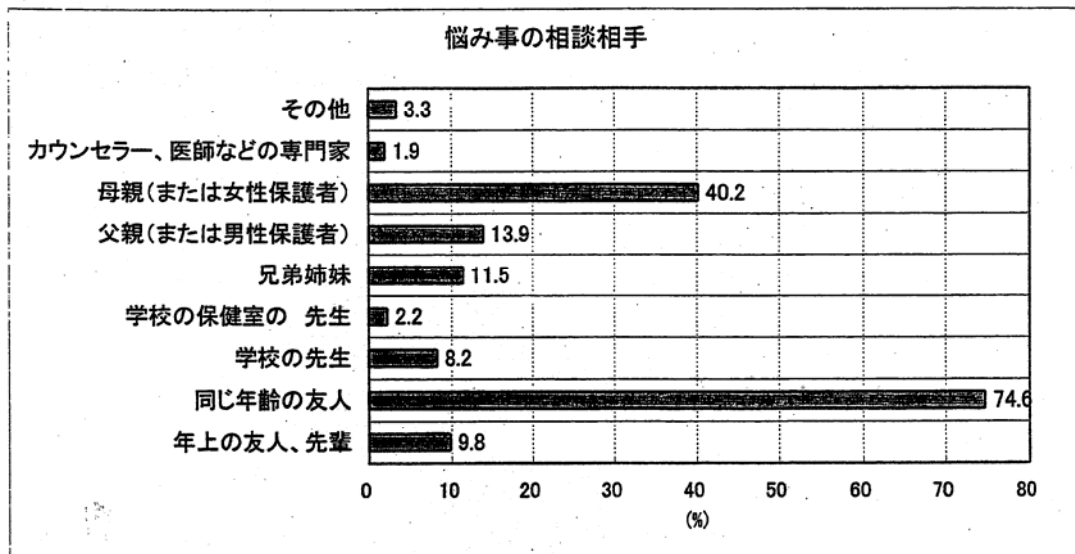
誰かに「相談した」と回答した者は、全体の 49.8%であった。また「相談したかったが相談できる人がいなかった」と回答した者が 5.3%を占める。

「相談した」と回答した者の割合は、男女別では女子の方が圧倒的に多く、高校女子では 67.9%を占めている。



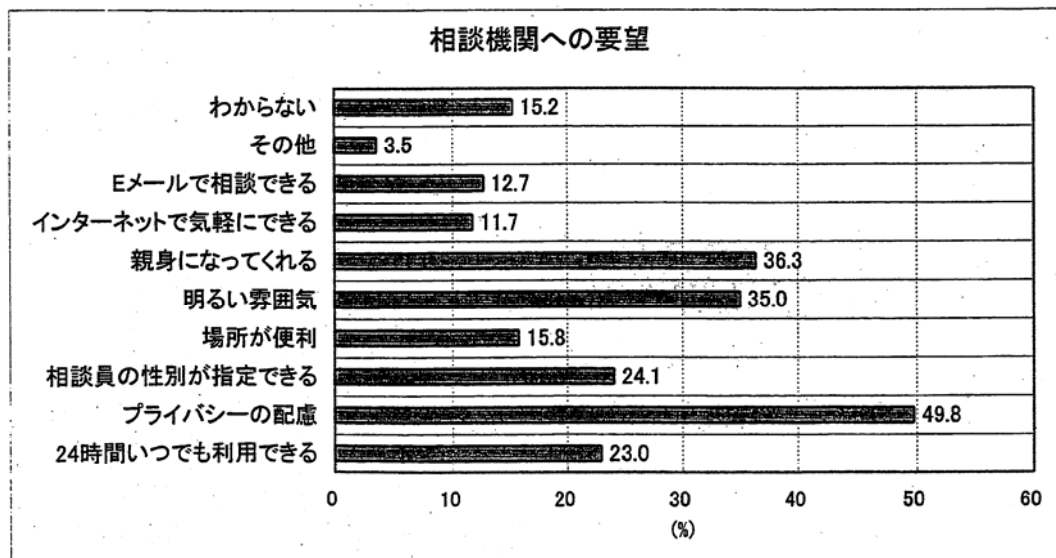
(9) 悩み事の相談相手

相談相手としては、「同じ年齢の友人・同級生」が74.6%で最も多く、次いで「母親（または女性保護者）」(40.2%)となっており、それ以外の相手に相談した割合は低いことが伺える結果であった。



(10) 相談機関への要望

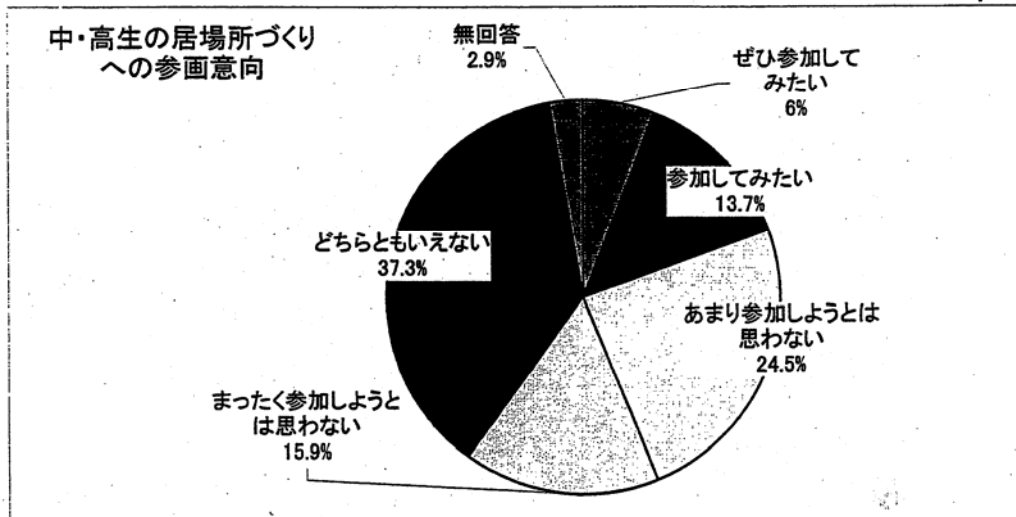
全体では「プライバシー配慮」49.8%が最も高い回答割合を占めており、次いで「親身になってくれる」(36.3%)、「明るい雰囲気」(35.0%)などの順になっている。



(11) 中高生の居場所づくりへの参画意向

全体では「ぜひ参加してみたい」と「参加してみたい」の合計が 19.4%で、おおむね 5 人に 1 人の割合であった。また、「参加の意思なし」が（「あまり参加しようとは思わない」と「まったく参加しようとは思わない」の合計）全体の 40.4%であり、「どちらともいえない」が 37.3%であった。

中学生・高校生ともに、参加の意向を示した回答割合は女子の方が高い傾向にあり、中学女子では 25.9%であった。



青少年活動機能について

★具体的提案

①プレイスペース・ラウンジ等、状況的利用を可能とするスペースの十分な確保

- ・マンガ・雑誌の整備・充実（進学・就職・市民活動・芸術文化・知的情報含む）
⇒OK（マンガ、進学・就職誌などはよいアイデア）
- ・パン等飲食物の自動販売機、ゴミ箱の設置⇒スタジオラウンジ OK
- ・自転車置き場の確保⇒できるかぎり確保
- ・スタジオを減らして、プレイスペースを増やす⇒利用用途の具体化、設計上の検討
- ・スタジオラウンジを広くする⇒利用用途の具体化、設計上の検討

②時間帯による優先利用と利用料金の大幅な減免

- ・生徒・学生であるかどうかではなく、年齢で！
⇒年齢で優遇措置を考える

③隣接の公園のできる限りの利用

- ・住民への騒音は最大限配慮。それ以外の要望・苦情との調整をできる限り行い、バスケ・スケボー・ダンスなどの練習場所のできる空間を。
e x. ガラス張り外側にライトをつけ、地面を平らにするだけでダンスの練習場所になる。（美竹公園（東京都児童会館前）、損保ジャパンビル）
⇒隣接公園は、プレイスのフィールドの一部であり、青少年の利用方法を具体化

④他世代の要望との矛盾をできる限り回避できるような空間構成とルールづくり

- ・互いに文化が異なる者同士の過剰な葛藤を抑えるためのある程度の空間的分離
- ・成人世代の苦情（「迷惑」「怖い」など）を直接には反映させない
⇒この考え方に基づいて、施設運営をしていく。青少年の拠点は、B2 スタジオフロアと考える。ただし、スタジオを利用したい大人もいるので、青少年利用は放課後等のコアな優先時間を設定する。

⑤スタッフ

- ・教育癖がない 他世代の要望との調整 公的・知的情報への間接的な接続
e x. 児童館職員、NPOスタッフ等 c f. 退職教員
⇒スタジオフロアの管理運営方法を検討する。青少年活動支援の若いNPOが管理するとか、青少年利用のコアタイムに、大学生などのボランティアを活用

★「館全体に図書館機能を」「ブラウジング」の意義

- 貸出型の図書館機能を基本に、さらに滞在型の図書館機能への対応（ブラウジング）
- ゆったりとしたスペースに気持ちのいい読書環境を整える
- 複合施設の利点を活かし、市民活動や青少年活動と図書館機能とが有機的連携を図る



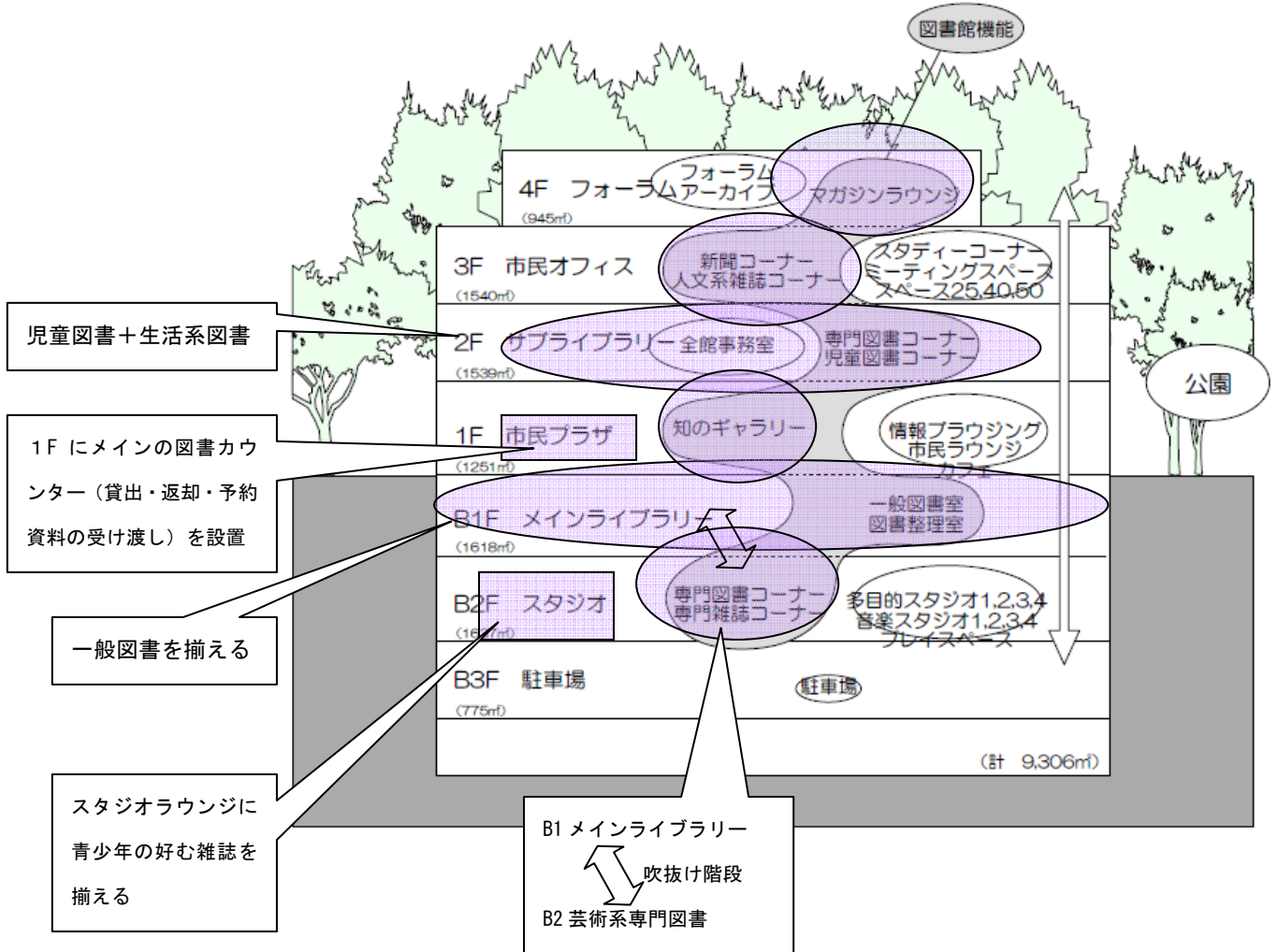
課題1 来館者の9割が図書館利用者であり、図書館利用者の目的は、求めている本を容易に探し出せることであり、本は出来る限り集約されていることが理想である

課題2 本が分散されていることは、各フロアに図書カウンターがあり、レファレンスに対応できる図書館職員を配置する必要がある。また、開館時間・開館日数の拡大はさらに人員配置を必要とする。
(ICチップによる自動貸出、BDSによるゲートチェックは導入を前提条件)



庁内検討委員会の提案	課題
・資料管理やレファレンスにきちんと対応するために、資料のあるフロアはカウンターが必要である。	課題2⇒ 重要課題
・地上2階の専門図書コーナーは、隣接する児童図書との連携を図るため、子育て中の親子が楽しめる生活系の図書（例えば、旅行（290）・アウトドア・ガーデニング・生活（590）・子育て等）とする。	課題1への対応⇒OK（ある程度、集約できる）
・地下1階のメインライブラリーは、上記の趣味系図書、地下2階の芸術専門図書以外の一般図書を揃える。⇒一般図書を探す目的の来館者は、地下1階メインライブラリーへ	
・メインライブラリー内に、ヤングアダルトコーナーを設置する。（スタジオラウンジにマンガを置くのであれば、地下2階スタジオフロアでも可）	⇒OK
・地下2階の芸術専門図書と地下1階のメインライブラリーを吹抜け等でつなぎ、地下1階メインライブラリーから容易に行くことができるなど一体感を持たせる。地下2階の芸術専門図書とスタジオ部分はガラス等で区画する。（行き来はできる）	課題2への対応⇒OK
・雑誌・新聞が、4階趣味系雑誌、3階人文系雑誌・新聞と2層にまたがっているが、管理面から1層に集約することが望ましい。バックナンバーを充実させる。	課題1,2⇒ 重要課題
・雑誌は、調査・研究に関する雑誌以外は貸し出す。	⇒検討課題
・貸出、返却は1箇所にする。予約資料の受け渡しも考え1階が望ましい。その他のフロアは相談カウンターのみとする。	課題2への対応⇒OK
・ICチップによる自動貸出機、BDSを導入し、窓口カウンター業務の軽減を図る。ただし、ゲートのあるところには、人の配置が必要である。	課題2への対応 ⇒人員配置と自動化との関係
・知のギャラリーは、複数の企画展示が可能とし、順番に展示を入れ替えるようにする。展示方法は平置き可能なタイプとし、また、企画展示内容が表示できるようにする。展示書架は可動式とする。	⇒知のギャラリーの具体的内容の検討
・各階の図書カウンター裏に作業用スペースを充分確保する。	⇒実施設計に反映

図書館機能とブラウジング



武蔵野プレイス(仮称)専門家会議 傍聴者感想(意見)集計

第2回(8月29日)

	意 見
1	<p>1. 議事の進め方について</p> <p>●前回出された問題点をクリアする進行をするべきではないでしょうか？</p> <p>市議会常任委員会などでも同様ですが、武蔵野市では委員会や会議の進行が1回1回ぶつ切れになる点が気になります。前回の会議で出た問題点について、次の会議では解決策を提案し、お互いに議論するという手順で進めた方が解決のスピードが図れるのではないかと感じます。</p> <p>例えば、第1回の専門家会議では委員長はじめ何人かの委員から本質的な問題提起がありました。委員長からは「本当に欲しいサービスとは何なのか、それを具体的に詰めなければならない」「知的創造拠点というテーマの曖昧さ」「ブラウジングというのがどこまで大事なのか」、他の委員からは「基本設計は良くできていると思うが、市民の皆さんは注目している。何か言いたいことがあるんだろうな、と言うのが見える。」「この施設はそもそも何のために必要なのか、という割と大きな議論がポイントなのか、それとも細かい議論がポイントなのかがわからない。」等です。</p> <p>●議事の1)から3)それぞれの機能説明について</p> <p>上記の本質的な議論が委員の間で交わされていないのに、行政側の「機能の説明」が細かすぎて、すでに決まった事柄のように聞こえ、委員がミスリードされると感じます。本来は本質的な議論をもっと煮詰めてから、細かい問題や機能面に入るべきです。現段階では、行政側の説明と委員サイドの議論がかみあっていないので、行政側はポイントを絞ってもっとコンパクトな説明に押さえるべきです。</p> <p>2. 委員の現場視察を実施して、「図書の種類」などの基本的な知識を委員間で共有して欲しい。</p> <p>●現状の図書館の中身を理解することが大切</p> <p>近藤委員から「ヤングアダルト」の意味がわからないとの発言がありました。最近では朝日新聞の書評などでも「ヤングアダルト図書」など使われていて、大分一般的な言葉になってきています。実際にこれまでに中央図書館を利用していれば、ヤングアダルトコーナーが1階の目立つ場所にあり、若い人が利用していることもわかるはずですが。小林委員も武蔵野市に住んでいる訳ではないので、委員の方々に実際の武蔵野市の図書館を見て欲しい感じました。</p> <p>●図書の分類方法の意味を理解して欲しい。</p> <p>小林委員から「これまでの分類を見直してはどうか」などの趣旨の発言がありましたが、例えば、新書や文庫などのコーナーに限定して「アイウエオ順」を取り入れるなどは十分考えられることですが、基本的な図書館の仕組み自体を安易に変えることは却って混乱を招き、手間もかかることになり、他の図書館との関連性も断ち切られて問題が大きいと感じます。</p>
2	<p>かつて、農水省倉庫跡地利用計画の策定にあたり、「緑の環境価値の重視について、委員全員は皆さんと共通の認識です。」と西尾委員長が地元の市民グループの私たちに語ってくれました。</p> <p>その後の曲折を経て専門家会議が始動しましたが、委員各位には市民代表として、専門家として、当計画の敬意を深く読み取り、市民と共に在る議論を重ねて下さい。</p> <p>ご承知のように、直近の選挙(市長選挙)でプレイス抜本見直しの公約が多数の支持を得たこと、そしてまた、建物施設よりも、環境・景観・憩いの充足としての「緑あふれる皆の庭」望む熱い思いが地元で根強くあることをきちっと見極め考慮してください。</p> <p>私たちは「建物規模を小さくして地下を活用し、地上はなるべく広く、まちのシンボルとしての雑木林を」と提言してきました。目先の利便性を超えて大らかに根源的に考えたいのです。</p> <p>そもそも農水省との跡地取得の協議当初、具体的な使用目的なしに、とりあえず取得しようという、大様で大らかないきさつからスタートした話です。そんなことを思い返しながら考えましたが、残念なことに前回の会議ではいきなり施設機能についての個別の細かな話に入ってしまい失望しました。特定市民への片寄せたサービスのあり方にさすがに異論発言はあったものの、例えばNPOなど100団体分ものロッカー、レターケースを備える必要があるのか？防災センターや他施設の市民活動スペースとダブルではないか？納得できません。まずは個別の枝葉の話ではなく、もっと大枠の広い視野で大本の理念から議論されるべきだと考えます。税金の遣い方としてもよく考えねばなりません。市民も共に、大らかに語りあいたいです。</p>
3	<p>低層で緑を大切にす川原田さんの案がプロポーザルで通ったにもかかわらず、なぜ大型の公共施設へと変わってしまったのか、力でねじふせられた川原田さんのくやしいや如何ばかりかと思えます。</p> <p>駐車場として地下3階を確保するなどということは(勿論、荷さばき・障害者用は別として)地下水脈・費用・等々を考える時、時代に逆行しています。</p> <p>パーク&ライトはいまやヨーロッパの例をあげるまでもなく、もはや世界の常識となりつつあります。駅前を緑豊かな空間にすることは、必ずやむさしのの貴重な財産になっていく筈です。</p> <p>長い長い目でむさしのをどうするかを専門家の先生方にせつに切に期待してやみません。</p>

意 見	
4	<p>1. 図書館機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西部図書館が今後どのように使われるのかが不明。比較的蔵書の多い児童向け図書館として存続させ、プレイス(仮)の図書スペースを減らしてはどうか。 ・他の図書館との有機的交流と相互活用を通して、図書数を大幅に減らせるのではないか。また、委員の意見にもあったが、6層に分散する図書はかえって活用しにくく、人件費もかかる。コンパクトにまとめたほうがよいのではないか。 <p>2. 市民活動機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の拠点は活動している地域にあることが望ましく、「小規模分散」を基本的な考え方とするべきではないか。その上で、相互の交流や事務・活動の利便性のためにどうしても必要なものは何か、を検討して欲しい。 ・地域のコミュニティセンターや学校を活動の拠点として整備すると共に、スウィングや市民会館を有効利用することを前提に必要な機能を検討すれば、今の施設計画は縮小できるのではないか。 <p>3. 青少年活動機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンハウスにおける市民意見でも、20代までは6名(3.2%)にすぎず、当事者である青少年の声が計画に反映されているとは言い難い。市内の青少年に幅広く希望をきいて、イメージをふくらませ、参加・活用意欲を賦活させてはどうか。 ・青少年の活動の場を基本的には住居地に近いことが望ましく、小・中学校の体育館・音楽室・空き教室等の活用を検討してはどうか。 ・青少年が施設を活用するための仕掛け(ソフト)について、もっと十分な検討必要なのではないか。例えば、小・中学校の環境教育でプレイス(仮)を使い、緑の中でお弁当を食べるとかして、施設利用になじんでもらうのもよいかも知れない。 <p>以上、ご検討ください。よろしくお願いいたします。</p>